

0001

長文読解・論点抽出 > 要求・制約条件の抽出 | 難易度：基礎

販売管理システム刷新の事例で、「月末最終営業日の20時まで受注し、翌朝6時には新システムで出荷指示を開始する。切替え中も店舗からの照会は継続したい」とある。移行方式を検討する際に最も重要な制約はどれか。

- ア．切替え可能時間が20時から翌6時までに限られ、照会サービスも継続する必要があること。
- イ．新システムでは必ずマイクロサービスを採用すること。
- ウ．全店舗の端末を同時に最新機種へ交換すること。
- エ．データ移行は必ず一括コピーだけで行うこと。

答え・解説

正答：ア

ア：本文に明示された時間窓とサービス継続条件は方式選定を拘束する制約である。
イ：アーキテクチャ方式は本文から導けず、制約とはいえない。
ウ：端末交換は記載がなく、推測で条件を追加している。
エ：一括移行は手段であり、本文が要求している条件ではない。
総合解説：B-1では、本文に明示された業務上・技術上の制約と、設計者が選ぶ実現手段を区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0002

長文読解・論点抽出 > 要求・制約条件の抽出 | 難易度：標準

監査対応の説明に「取引記録は法令と社内規程に基づき7年間参照できなければならない」とある。要件として直接読み取れるものはどれか。

- ア．7年間は同一DB製品の同一テーブルに保存すること。
- イ．取引記録を7年間参照可能な状態で保持すること。
- ウ．7年分を常に本番サーバの高速ストレージだけに置くこと。
- エ．保存媒体を磁気テープに限定すること。

答え・解説

正答：イ

ア：DB製品やテーブル構造は実現方式であり本文からは決まらない。
イ：保持期間と参照可能性が要求として明示されている。
ウ：ストレージ階層は性能・コストを踏まえて設計する事項である。
エ：媒体の限定は本文にない設計上の決め打ちである。
総合解説：要求は「何を満たすか」、設計は「どう満たすか」で切り分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0003

長文読解・論点抽出 > 要求・制約条件の抽出 | 難易度：標準

顧客検索について「通常時の検索結果は95パーセンタイルで2秒以内に表示したい。担当者からはキャッシュの利用案が出ている」とある。要求として抽出すべき内容はどれか。

ア．必ずキャッシュサーバを2台導入すること。

イ．検索データを全てメモリ上だけに保持すること。

ウ．通常時の顧客検索の95パーセンタイル応答時間を2秒以内とすること。

エ．DBアクセスを禁止して検索専用製品へ全面移行すること。

答え・解説

正答：ウ

ア：キャッシュは候補方式であり、要求そのものではない。

イ：メモリ保持は実装案で、データ量や可用性も未検討である。

ウ：測定条件を伴う応答時間目標が非機能要求である。

エ：製品移行は本文から導かれない。

総合解説：B-1では定量目標と解決策候補が同じ段落に書かれていても混同しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0004

長文読解・論点抽出 > 要求・制約条件の抽出 | 難易度：基礎

倉庫内の棚卸端末は地下エリアで最大30分程度ネットワーク接続が途切れるが、作業者はその間も読取りを続ける必要がある。システム要件検討で最も重視すべき制約はどれか。

ア．地下エリアの通信を常時100Gbpsにすること。

イ．端末からサーバへの通信を毎操作必須にすること。

ウ．通信断が発生したら棚卸作業を中断する運用に変更すること。

エ．一時的な通信断の間も入力を保持し、再接続後に整合を取りながら同期できること。

答え・解説

正答：エ

ア：帯域値は過剰かつ本文に根拠がない。

イ：毎操作通信必須は本文の環境制約と矛盾する。

ウ：業務要件「作業継続」を無視した回避策である。

エ：業務継続条件からオフライン動作と後続同期が必要だと分かる。

総合解説：利用環境の制約は方式設計に直接影響するため、事例から明示的に拾う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0005

長文読解・論点抽出 > 要求・制約条件の抽出 | 難易度：応用

新サービスの計画で「初期投資は5,000万円を上限とする。一方、障害時でも主要機能は30分以内に復旧したい」とある。方式比較時の読み取りとして適切なものはどれか。

ア．5,000万円は資源制約、30分以内復旧は可用性に関する要求として、両者を同時に満たす案を比較する。

イ．5,000万円を超えれば可用性要求は自動的に無効になる。

ウ．30分以内復旧があるので予算上限は考慮しなくてよい。

エ．両者は同じ種類の要求なので一つの数値に統合して評価する。

答え・解説

正答：ア

ア：予算と可用性は異なる評価軸であり、トレードオフを含め同時に扱う。

イ：一方の制約が他方を消す根拠はない。

ウ：予算制約を無視すると実現可能性を評価できない。

エ：異質な指標を一つの数値へ単純統合するのは不適切である。

総合解説：制約と品質要求は併存するため、方式選定では複数軸で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0006

長文読解・論点抽出 > 要求・制約条件の抽出 | 難易度：標準

配送会社の外部APIは契約上、1テナント当たり毎秒100リクエストまでで、超過時は429を返す。繁忙時には自社側で毎秒500件の出荷確定が発生する。最も重要な設計制約はどれか。

ア．自社側の500件をそのまま同期呼出しし、429は利用者に表示すること。

イ．外部APIの呼出しレート上限を超えないよう、キューイングや平準化を含めて連携方式を設計すること。

ウ．外部APIの上限を無視して再送回数だけ増やすこと。

エ．外部APIを使う限り自社側の出荷件数を毎秒100件に制限すること。

答え・解説

正答：イ

ア：同期でそのまま流すと上限超過が恒常化する。

イ：外部サービスの契約上限はシステム境界の制約であり、吸収方式が必要である。

ウ：無制限再送はさらに負荷を増やす。

エ：業務量そのものを不必要に抑えるのではなく連携を設計すべきである。

総合解説：外部システムのレート制限、受付時間、SLAなどは典型的な外部制約である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0007

長文読解・論点抽出 > 要求・制約条件の抽出 | 難易度：基礎

基幹システム連携で、監査済みの会計パッケージ本体は今回変更できず、提供済みのファイルIFだけが利用可能である。要求分析上の適切な扱いはどれか。

ア．会計パッケージを改造する前提で最適なAPIを新設する。

イ．変更不可という条件を無視し、新システム側の都合だけでデータ形式を決める。

ウ．会計パッケージを変更不可の境界条件とし、提供IFを前提に新側の連携方式を検討する。

エ．連携を諦め、会計データは手入力だけにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：本文の変更禁止条件に反する。

イ：相手IF制約を無視すれば連携できない。

ウ：既存資産の変更可否は方式選定を拘束する重要な技術・契約制約である。

エ：要求を満たす代替検討をせず業務を悪化させる案である。

総合解説：既存システムの変更範囲や利用可能IFは、B-1事例で見落としやすい制約である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0008

長文読解・論点抽出 > 要求・制約条件の抽出 | 難易度：標準

契約条項に「顧客の本人確認画像は国内リージョンから外へ保存してはならない」とある。クラウド構成を検討する際の適切な読み取りはどれか。

ア．アプリサーバが国内なら、画像のバックアップ先は国外でもよい。

イ．暗号化すれば保存場所の制約は消える。

ウ．利用者が国内なら、クラウド上の実データ所在地は確認不要である。

エ．本人確認画像の保存先・バックアップ先・複製先を含め、国内に限定できるサービス構成を選ぶ必要がある。

答え・解説

正答：エ

ア：契約条件が保存先を限定しており、バックアップだけ例外とは読めない。

イ：暗号化と所在地制約は別の要件である。

ウ：利用者所在地とデータ所在地は同義ではない。

エ：データ所在地の制約は本体だけでなく複製・バックアップにも及ぶ設計論点となる。

総合解説：データレジデンシー制約では、主系だけでなくDRやログ、バックアップも確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0009

長文読解・論点抽出 > 要求・制約条件の抽出 | 難易度：標準

購買業務では、不正防止のため「発注申請者と最終承認者は同一人物であってはならない」と定められている。システム要件として最も直接的なものはどれか。

- ア．同一案件で申請者と最終承認者が同一にならないよう権限・ワークフローで制御すること。
- イ．申請者と承認者に同じ管理者権限を付与すること。
- ウ．承認履歴は保存せず、承認済みフラグだけを保持すること。
- エ．発注申請を自動承認にして人の役割をなくすこと。

答え・解説

正答：ア

ア：業務統制としての職務分離をシステム上の認可ルールへ反映するのが直接的である。

イ：同権限付与は職務分離を弱める。

ウ：監査証跡を失い、統制の確認も難しくなる。

エ：業務ルールを勝手に廃止している。

総合解説：業務ルールから、認可・ワークフロー・監査の具体的要件を導く。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0010

長文読解・論点抽出 > 登場人物・組織・役割 | 難易度：応用

受注システム刷新で、営業部長が値引承認ルールを所管し、情報システム部はそのルールをシステムへ実装する。要件レビューで「10%超の値引きを誰が承認するか」が未確定だった。最初に確認すべき相手は誰か。

- ア．画面を実装する開発者。
- イ．値引承認ルールの業務責任を持つ営業部長。
- ウ．DB運用担当者。
- エ．ネットワーク保守ベンダ。

答え・解説

正答：イ

ア：開発者は決定されたルールを実装する立場である。

イ：業務ルールの決定権を持つ部門責任者が要件確定の主体である。

ウ：DB運用は承認権限の業務ルールを決めない。

エ：ネットワーク保守は論点と役割が異なる。

総合解説：登場人物の役割を整理し、「誰が決めるか」「誰が実装するか」「誰が利用するか」を分離する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0011

長文読解・論点抽出 > 登場人物・組織・役割 | 難易度：基礎

外部ベンダが開発し、利用部門が受入れテストを行う案件で、機能が業務要件を満たすかの最終受入れ判定を担う主体として最も適切なのは誰か。

- ア．開発ベンダだけ。
- イ．クラウド事業者だけ。
- ウ．発注者側で業務要件の受入れ責任を持つ部門・責任者。
- エ．テストツール提供会社。

答え・解説

正答：ウ

ア：開発者の自己判定だけでは発注者の受入れにはならない。
イ：クラウド事業者は基盤提供範囲の責任主体である。
ウ：受入れは発注者が要求適合を確認して受け入れる活動である。
エ：ツール会社は業務要件の受入れ主体ではない。
総合解説：契約・開発・受入れの役割を切り分けて読む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0012

長文読解・論点抽出 > 登場人物・組織・役割 | 難易度：標準

顧客マスタの住所品質について、営業企画部が入力ルールを定め、情報システム部がDBを運用している。住所の業務上の正当性ルールを変更する場合、主たる決定主体は誰か。

- ア．DBバックアップ担当者。
- イ．サーバ監視担当者。
- ウ．回線事業者。
- エ．顧客データの業務定義を所管する営業企画部。

答え・解説

正答：エ

ア：バックアップ担当は保持・復旧を担うが業務定義は決めない。
イ：監視担当は稼働監視の役割である。
ウ：回線事業者はデータ定義に関与しない。
エ：データの意味・品質基準は業務データのオーナーが決めるべき事項である。
総合解説：データオーナーと技術運用担当を混同しないことが要件分析では重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0013

長文読解・論点抽出 > 登場人物・組織・役割 | 難易度：標準

個人情報の誤送信が疑われる事象で、SOCは検知・技術調査を担当し、法務・情報セキュリティ責任者が
対外報告要否を判断する体制である。ログから漏えい可能性が見つかった直後の役割整理として適切な
のはどれか。

ア．SOCは証跡を保全して技術事実を整理し、報告要否の判断材料を責任者へ提供する。
イ．SOCが法的判断まで単独で確定する。
ウ．法務部がログ解析を直接実施し、SOCは関与しない。
エ．開発者が証跡を削除して利用者影響を隠す。

答え・解説

正答：ア

ア：技術調査と対外判断の責任を分けつつ、必要な情報を連携するのが適切である。
イ：法的・経営判断までSOC単独の責任とは限らない。
ウ：技術調査能力を持つSOCの役割を外すのは不合理である。
エ：証跡削除は調査・監査を妨げる。
総合解説：事例の役割分担は、責任・権限・情報連携の3点で読む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0014

長文読解・論点抽出 > 登場人物・組織・役割 | 難易度：基礎

新サービスで、プロダクト責任者が提供価値と優先順位を決め、システムアーキテクトが方式案と技術リ
スクを示す。納期内に全機能を実装できないと判明した場合の適切な進め方はどれか。

ア．アーキテクトが業務価値を無視して独断で機能を削除する。
イ．アーキテクトが技術的影響と代替案を示し、プロダクト責任者が業務価値を踏まえて優先順位を決定
する。
ウ．開発者が実装しやすい順に機能を決める。
エ．全機能を同じ優先度のまま扱い、納期超過を受け入れる。

答え・解説

正答：イ

ア：業務上の優先順位まで技術者が独断で決めるのは不適切である。
イ：役割に応じて技術判断材料と業務優先順位の意思決定を分担する。
ウ：実装容易性だけでは事業価値を反映できない。
エ：制約下で優先順位を付ける必要がある。
総合解説：アーキテクトは意思決定者へ比較可能な技術情報を提供する役割を持つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0015

長文読解・論点抽出 > 登場人物・組織・役割 | 難易度：応用

SaaS型CRMを利用し、SaaS事業者はサービス基盤の稼働を保証する一方、自社は顧客データの登録権限と外部連携設定を管理する。誤った権限設定で顧客情報が社内の不要な利用者から閲覧できた場合、まず確認すべき自社側の責任範囲はどれか。

- ア．SaaS事業者のデータセンタ建物の耐震性だけ。
- イ．インターネット全体のルーティング方式。
- ウ．利用者・ロール・共有設定など、自社が管理するアクセス設定。
- エ．SaaS製品のソースコード著作権。

答え・解説

正答：ウ

ア：施設耐震は今回の権限漏えい原因とは直接結びつかない。
イ：インターネット全体の経路設計は自社の権限設定ではない。
ウ：共有責任のうち自社設定が原因となり得る領域を優先して確認する。
エ：著作権はアクセス制御事象の原因分析と無関係である。
総合解説：クラウド/SaaS事例では、提供者と利用者の責任分界を本文から特定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0016

長文読解・論点抽出 > 登場人物・組織・役割 | 難易度：標準

店舗返品では、通常は店長が5万円以下を承認し、5万円超は本部経理部長の承認が必要である。8万円の返品を店長だけで確定できてしまった。事例から最初に疑うべきものはどれか。

- ア．返品DBの文字コードがUTF-8であること。
- イ．店舗LANが有線接続であること。
- ウ．帳票がPDF形式で出力されること。
- エ．金額条件に応じた承認権限の実装または設定が、業務上の役割分担と一致していないこと。

答え・解説

正答：エ

ア：文字コードは承認額の権限逸脱を説明しない。
イ：LAN方式は承認権限に関係しない。
ウ：帳票形式も原因ではない。
エ：本文の承認ルールと実システムの権限制御が矛盾している。
総合解説：役割・権限の問題は、業務ルールと認可設定の対応で判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0017

長文読解・論点抽出 > 登場人物・組織・役割 | 難易度：基礎

受注システムと倉庫システムを別部門・別ベンダが担当している。受注側で項目追加した結果、倉庫側取込みが失敗した。再発防止の役割設定として最も適切なものはどれか。

ア．両システムにまたがるIF仕様のオーナーと変更合意手順を定め、双方が変更影響を確認する。

イ．各ベンダが自分のシステム内だけを見て自由にIFを変更する。

ウ．障害が起きた都度、利用者が手作業で項目を削除する。

エ．IF仕様書を廃止し、口頭連絡だけにする。

答え・解説

正答：ア

ア：組織境界を跨ぐ仕様には責任主体と変更管理の合意が必要である。

イ：独立変更では互換性を維持できない。

ウ：利用者による都度回避は恒久対策ではない。

エ：口頭のみでは追跡性と合意証跡を失う。

総合解説：複数組織の事例では、境界オブジェクトであるIFの責任者が重要になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0018

長文読解・論点抽出 > 構成図・表・ログの読解 | 難易度：標準

API応答が遅い時間帯の計測で、Web処理20ms、業務ロジック35ms、DB待ち1,800ms、外部API待ち40msだった。優先して調査すべき箇所はどれか。

ア．Web処理20msだけ。

イ．DB待ちが支配的なので、SQL実行計画、ロック、I/OなどDB側の待ち要因。

ウ．外部API待ち40msだけ。

エ．全ての処理時間が同程度なので原因特定は不要。

答え・解説

正答：イ

ア：20msの改善では全体への寄与が小さい。

イ：全体遅延の大半をDB待ちが占めている。

ウ：40msも相対的に小さい。

エ：値は大きく偏っており、同程度ではない。

総合解説：B-1の表・ログは絶対値より構成比や変化点を読む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0019

長文読解・論点抽出 > 構成図・表・ログの読解 | 難易度：標準

メッセージキューの監視で、投入は平均600件/分、消費は平均450件/分、キュー長は30分間連続して増加している。最も妥当な判断はどれか。

ア．キュー長増加は正常なので対策不要である。

イ．投入量を増やせばキューは短くなる。

ウ．定期的に投入量が消費量を上回っており、消費側能力を増やすか流入を平準化する必要がある。

エ．消費処理を停止するとキュー長は減る。

答え・解説

正答：ウ

ア：長時間増加は遅延拡大の兆候である。

イ：投入増加はさらに滞留を増やす。

ウ：差分150件/分が滞留し続けるためキューは増加する。

エ：消費停止ならキューはより増える。

総合解説：キューでは流入率と処理率の差から滞留傾向を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0020

長文読解・論点抽出 > 構成図・表・ログの読解 | 難易度：応用

ピーク時の監視値が、アプリCPU45%、メモリ60%、ネットワーク30%、DBストレージIOPS95%、DB I/O待ち時間が平常時の4倍だった。優先的に確認すべきものはどれか。

ア．アプリCPUの過負荷。

イ．ネットワーク帯域の枯渇。

ウ．メモリ不足だけ。

エ．DBストレージI/Oの飽和とアクセスパターン。

答え・解説

正答：エ

ア：CPU45%は飽和を示していない。

イ：ネットワーク30%も余裕がある。

ウ：メモリ60%だけでは不足と判断できない。

エ：IOPSと待ち時間が同時に高く、I/O律速の可能性が高い。

総合解説：複数指標を関連付け、飽和と待ち時間の一致を見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0021

長文読解・論点抽出 > 構成図・表・ログの読解 | 難易度：基礎

注文状態は「受付→与信済→出荷準備→出荷済→完了」と遷移し、取消しは「受付」または「与信済」からだけ可能と定義されている。ログに「出荷済→取消済」が記録された。最も適切な判断はどれか。

- ア．定義された状態遷移に反するため、更新経路や状態チェックの欠落を調査する。
- イ．正常な遷移なので調査不要である。
- ウ．状態遷移定義を廃止して任意更新を許可する。
- エ．ログだけを削除して状態を維持する。

答え・解説

正答：ア

ア：出荷済から取消しは定義されておらず、整合性違反である。
イ：本文のルールに反する。
ウ：任意更新は業務整合性を失わせる。
エ：証跡削除では原因もデータ不整合も解消しない。
総合解説：状態表は「許可される遷移」と実ログを照合して読む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0022

長文読解・論点抽出 > 構成図・表・ログの読解 | 難易度：標準

構成は「LB2台→アプリ4台→DB1台」で、LBとアプリは冗長化されている。DB障害時には全業務が停止する。構成上の最大の問題はどれか。

- ア．アプリが4台あること。
- イ．DBが単一障害点になっていること。
- ウ．LBが2台あること。
- エ．LBとアプリの間にネットワークがあること。

答え・解説

正答：イ

ア：アプリ複数台は冗長性を高める。
イ：DB1台の故障で全体停止するためSPOFである。
ウ：LB複数台も冗長性を高める。
エ：通信経路の存在自体は問題の説明にならない。
総合解説：構成図では冗長化されていない依存要素を探す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0023

長文読解・論点抽出 > 構成図・表・ログの読解 | 難易度：標準

新バージョン公開直後からエラー率が0.2%から6%へ上昇した。旧APIは0.2%のままで、新規追加した注文更新APIだけが18%である。最初に切り分ける対象として最も適切なのはどれか。

ア．全社ネットワークを全面交換する。

イ．旧APIだけを停止する。

ウ．新規注文更新APIの変更内容、入力条件、依存先。

エ．エラー率の監視を無効化する。

答え・解説

正答：ウ

ア：全社ネットワーク障害なら旧APIにも影響が出る可能性が高い。

イ：正常な旧API停止は切り分けにならない。

ウ：変化が新規APIに局在しており、リリース差分との相関が強い。

エ：監視停止は原因把握を妨げる。

総合解説：前後比較と局所性を使うと、事例中の原因候補を絞り込める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0024

長文読解・論点抽出 > 構成図・表・ログの読解 | 難易度：基礎

平常時はキャッシュヒット率92%、DB CPU35%だったが、障害時はヒット率40%、DB CPU88%、検索応答時間が3倍になった。最も妥当な仮説はどれか。

ア．DB負荷上昇はキャッシュヒット率とは無関係と断定できる。

イ．ヒット率が低いほどDBアクセスは減る。

ウ．応答時間悪化の原因は必ずネットワークだけである。

エ．キャッシュミス増加によってDBへの読取負荷が増え、応答遅延につながった可能性がある。

答え・解説

正答：エ

ア：指標間に明確な関連候補がある。

イ：ヒット率低下は一般にバックエンド参照を増やす。

ウ：他の根拠なしにネットワークへ限定できない。

エ：キャッシュミス増加とDB負荷・遅延上昇が同時に起きており因果候補として妥当である。

総合解説：複数メトリクスの同時変化から仮説を立て、追加計測で検証する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0025

長文読解・論点抽出 > 構成図・表・ログの読解 | 難易度：応用

夜間バッチは100万件で40分、200万件で82分、300万件で126分かかる。処理窓は120分で、半年後には300万件を超える見込みである。最も適切な判断はどれか。

ア．現状のほぼ線形な増加傾向では処理窓超過が見込まれるため、早期に処理性能・分割方式・処理窓を見直す。

イ．300万件で126分でも120分以内なので問題ない。

ウ．データ量が増えれば処理時間は必ず短くなる。

エ．半年後まで計測を行わず、超過してから対処する。

答え・解説

正答：ア

ア：既に300万件で処理窓を超えており、将来増加も見込まれる。

イ：126分は120分を超えている。

ウ：データ量増加で自動的に短縮される根拠はない。

エ：予測可能な容量不足は事前対策すべきである。

総合解説：表から傾向と制約値を比較し、将来容量を含めて判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0026

要件・方式判断 > 業務要件・システム要件判断 | 難易度：標準

業務部門の要件は「15時までに確定した注文は原則当日出荷する」である。システム要件として最も直接的なものはどれか。

ア．全注文画面の背景色を青にすること。

イ．注文確定時刻を保持し、15時までの対象注文を当日出荷処理へ確実に連携できること。

ウ．DB製品を特定ベンダに固定すること。

エ．出荷担当者のPC台数を半減すること。

答え・解説

正答：イ

ア：業務目標との因果関係がない。

イ：業務ルールを実行・追跡するための機能・データ要件へ具体化している。

ウ：製品選定はこの業務要件から直接決まらない。

エ：台数削減は別の業務・コスト検討である。

総合解説：業務要件から、必要な機能・データ・処理タイミングを導出する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0027

要件・方式判断 > 業務要件・システム要件判断 | 難易度：基礎

ECサイトで「購入途中離脱率を下げたい」という業務目標に対し、分析で決済画面の待ち時間が主因と分かった。システム要件化として最も適切なのはどれか。

- ア．離脱率をDBのテーブル数で表す。
- イ．画面機能を全て削除する。
- ウ．決済画面の応答時間目標と測定条件を定め、離脱率との関係を継続計測できるようにする。
- エ．待ち時間を計測せず、利用者の感覚だけで改善判定する。

答え・解説

正答：ウ

ア：テーブル数は離脱率を直接表さない。
イ：機能削除は業務価値を毀損する可能性がある。
ウ：業務KPIに影響する技術指標を定量化し、効果測定につなげている。
エ：客観的な効果評価ができない。
総合解説：業務効果とシステム性能を因果関係で結び付ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0028

要件・方式判断 > 業務要件・システム要件判断 | 難易度：標準

複数チャンネルで同一顧客が別IDとして登録され、集計が重複している。改善のシステム要件として最も適切なのはどれか。

- ア．チャンネルごとのID重複をそのまま許容し、集計時も調整しない。
- イ．氏名だけを常に一意キーとみなす。
- ウ．顧客マスタを廃止して各画面で自由入力する。
- エ．顧客を横断的に識別するキーと名寄せルール、元システムとの対応関係を定義する。

答え・解説

正答：エ

ア：重複問題が解消されない。
イ：同姓同名や表記揺れがあり一意性を保証できない。
ウ：データ品質がさらに悪化する。
エ：一意識別と対応付けのルールがデータ整合に必要である。
総合解説：業務上の「同一顧客」をシステムでどう識別するかを明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0029

要件・方式判断 > 業務要件・システム要件判断 | 難易度：標準

仕入価格の変更は、変動率が10%以下なら課長、10%超なら部長承認が必要である。最も適切なシステム要件はどれか。

- ア．変動率を算出し、その値に応じて承認経路を自動選択し、承認履歴を保持する。
- イ．全変更を無条件で自動承認する。
- ウ．承認者を入力者が自由に選べるようにする。
- エ．変動率を保持せず、承認後に削除する。

答え・解説

正答：ア

ア：業務ルールを判定・ワークフロー・証跡へ具体化している。

イ：承認ルールを無効化する。

ウ：職務統制を担保できない。

エ：監査・再現性に必要な根拠を失う。

総合解説：業務ルールは条件、処理、権限、証跡に分解して要件化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0030

要件・方式判断 > 業務要件・システム要件判断 | 難易度：応用

監査部から「誰が、いつ、どの顧客情報を、どの権限で更新したかを後から追跡したい」と要求された。最も適切な要件はどれか。

- ア．最終更新日時だけを顧客テーブルに保存する。
- イ．更新者ID、日時、対象、変更前後または変更内容、実行権限などを監査ログとして追跡可能に保持する。
- ウ．更新履歴を日次で全削除する。
- エ．利用者を共有IDに統一する。

答え・解説

正答：イ

ア：誰が何をしたか十分に追跡できない。

イ：追跡に必要な主体・時刻・対象・操作・権限を記録する。

ウ：監査証跡を失う。

エ：個人の操作主体を特定できなくなる。

総合解説：監査要件は必要証跡の項目と保持・保護条件まで具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0031

要件・方式判断 > 業務要件・システム要件判断 | 難易度：基礎

海外販売に対応し、注文時の金額と会計計上額の差異理由を説明できるようにしたい。システム要件として重要なものはどれか。

- ア．全通貨を整数としてレート情報なしで保存する。
- イ．画面表示時だけ任意のレートで換算し履歴を残さない。
- ウ．取引通貨、換算レート、レート適用日時・根拠を取引単位で保持する。
- エ．通貨コードを利用者の自由記述にする。

答え・解説

正答：ウ

ア：通貨・換算根拠を失い再現できない。
イ：時点差異の説明ができない。
ウ：後から金額の再現・説明ができるデータを保持する必要がある。
エ：コードの揺れで集計・整合性が崩れる。
総合解説：金額系要件では通貨、精度、丸め、レート時点、監査性を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0032

要件・方式判断 > 業務要件・システム要件判断 | 難易度：標準

公共向け申請サイトで「高齢者や障害のある利用者也使いやすい」という要求がある。要件定義として最も適切な進め方はどれか。

- ア．「使いやすい」という表現だけを要件として残す。
- イ．利用者テストをせず開発者の感覚だけで合否を決める。
- ウ．アクセシビリティは画面完成後に考える。
- エ．対象利用者と利用場面を定め、キーボード操作、代替テキスト、コントラスト等の検証可能な基準へ具体化する。

答え・解説

正答：エ

ア：曖昧で受入れ判定ができない。
イ：利用者視点を欠き客観性がない。
ウ：後付けでは構造的な修正コストが大きい。
エ：抽象要求を検証可能な品質基準へ具体化する。
総合解説：品質要件は受入れ時に判定できる具体性を持たせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0033

要件・方式判断 > 業務要件・システム要件判断 | 難易度：標準

契約書PDFを10年間保存し、監査時には契約番号で検索でき、保存期限後は規程に従って廃棄する必要がある。システム要件として適切なものはどれか。

- ア．保存期間、検索キー、完全性保護、期限到来後の廃棄手順を定義する。
- イ．PDFを保存するだけで検索・廃棄条件は定めない。
- ウ．期限後も永久保存する前提にする。
- エ．契約番号を保存せずファイル名だけに依存する。

答え・解説

正答：ア

ア：保持ライフサイクル全体を要件化している。

イ：監査検索と廃棄要求を満たせない。

ウ：規程と矛盾する可能性がある。

エ：安定した検索・照合ができない。

総合解説：データ保持は保存だけでなく参照性、保全、廃棄まで含めて考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0034

要件・方式判断 > 業務要件・システム要件判断 | 難易度：基礎

コールセンタは平日8時～22時に稼働し、その時間帯の停止は最大30分まで許容、夜間は2時間の計画停止が可能である。可用性要件の定義として最も適切なものはどれか。

- ア．24時間365日一切停止不可とだけ定義する。
- イ．業務時間帯と夜間で許容停止を分け、計画停止・障害停止の扱いと測定方法を定義する。
- ウ．停止時間を測定しない。
- エ．夜間の計画停止を業務時間帯の障害と同じ扱いにする。

答え・解説

正答：イ

ア：本文より過剰な要件でコストを不必要に上げる。

イ：業務特性に応じたサービス時間・停止許容を具体化している。

ウ：可用性の評価ができない。

エ：計画停止とサービス時間の関係を見逃している。

総合解説：可用性はサービス時間帯、停止分類、目標値を明示する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0035

要件・方式判断 > 業務要件・システム要件判断 | 難易度：応用

売上と決済会社の入金結果を毎日照合し、不一致を翌営業日の開始前までに担当者へ提示したい。最も適切なシステム要件はどれか。

ア．不一致を自動的に全て削除すること。

イ．照合せず売上側を常に正とみなすこと。

ウ．両データを業務キーで照合し、不一致理由を分類して期限までに一覧化し、再処理状況を追跡できること。

エ．不一致件数だけ表示し対象取引は示さないこと。

答え・解説

正答：ウ

ア：不一致原因を隠し会計整合を損なう。

イ：相手データとの不一致を検証できない。

ウ：照合・例外提示・追跡という業務プロセスを機能化している。

エ：担当者が解消作業を行えない。

総合解説：業務要件は正常系だけでなく例外処理まで要件化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0036

要件・方式判断 > 業務要件・システム要件判断 | 難易度：標準

マーケティング配信は顧客の同意範囲に従い、同意撤回後は対象外にする必要がある。システム要件として最も適切なものはどれか。

ア．同意有無を担当者の記憶だけで判断する。

イ．一度同意したら撤回状態を保存しない。

ウ．全顧客を常に配信対象にする。

エ．同意目的・取得日時・状態・撤回日時を管理し、配信対象抽出時に有効な同意を判定する。

答え・解説

正答：エ

ア：再現性・監査性がない。

イ：撤回要求を反映できない。

ウ：業務要件に反する。

エ：配信判定に必要な同意状態と履歴を管理する。

総合解説：時点によって変わる業務条件は状態と履歴を持たせて判定可能にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0037

要件・方式判断 > 業務要件・システム要件判断 | 難易度：基礎

現在は申請書を3部門へ紙回覧し平均5日かかる。目標は電子化して平均2日以内に短縮することである。システム要件化として最も適切なものはどれか。

- ア．電子ワークフローで部門別の処理状態・滞留時間を記録し、平均処理日数を測定できること。
- イ．紙をPDF化してメール添付するだけで処理状況は管理しない。
- ウ．処理日数を測定せず電子化した時点で目標達成とみなす。
- エ．全承認を廃止して即時完了にする。

答え・解説

正答：ア

ア：改善目標を支える機能と効果測定の仕組みを同時に定義している。
イ：電子化しても滞留可視化や統制が不十分である。
ウ：業務効果を確認できない。
エ：必要な承認業務を勝手に廃止している。
総合解説：業務改善要件はプロセス機能とKPI計測をセットで考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0038

要件・方式判断 > システム構成・方式選択 | 難易度：標準

商品画像と説明文は更新が少ない一方、全国からの閲覧が多く、ピーク時のWebサーバ負荷が課題である。最も適切な構成改善はどれか。

- ア．全画像を毎回DBから動的生成する。
- イ．静的コンテンツをCDNへ配信し、原本更新時にキャッシュ制御する。
- ウ．閲覧のたびに画像を別形式へ再変換する。
- エ．Webサーバを1台に集約する。

答え・解説

正答：イ

ア：DB負荷と処理量を増やす。
イ：読取中心の静的データをエッジ配信すると負荷と遅延を減らせる。
ウ：不要なCPU負荷を増やす。
エ：単一障害点と容量不足を悪化させる。
総合解説：アクセス特性に合わせ、キャッシュやCDNの適用可否を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0039

要件・方式判断 > システム構成・方式選択 | 難易度：標準

キャンペーン開始時に通知要求が数十秒だけ通常の20倍発生するが、通知送信は5分以内でよい。適切な方式はどれか。

ア．全通知を利用者リクエスト内で同期送信する。

イ．ピーク時は通知要求を捨てる。

ウ．受付と送信をメッセージキューで分離し、送信ワーカが処理能力に応じて消費する。

エ．DBロックを長時間保持したまま外部通知APIを呼ぶ。

答え・解説

正答：ウ

ア：外部API遅延を利用者応答へ直接波及させる。

イ：業務要求を満たさない。

ウ：即時完了不要の処理を非同期化し、バーストを平準化できる。

エ：ロック競合と障害影響を増やす。

総合解説：時間的疎結合が許される処理ではキューが有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0040

要件・方式判断 > システム構成・方式選択 | 難易度：応用

口座振替では残高減算と振替先加算が片方だけ成功してはならない。単一DB内で処理できる場合の基本方式として最も適切なものはどれか。

ア．二つの更新を独立にコミットし失敗確認は行わない。

イ．残高減算後に数時間後のバッチで必ず加算する。

ウ．エラー時も成功レスポンスを返して後で手修正する。

エ．両更新を同一トランザクションに含め、原子性を確保する。

答え・解説

正答：エ

ア：片側だけ確定する不整合が起こる。

イ：業務要件が即時整合を求める場合に適さない。

ウ：不整合を隠し、統制上も不適切である。

エ：同一DBで不可分な更新を原子的に扱うのが適切である。

総合解説：整合性要件に応じてトランザクション境界を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0041

要件・方式判断 > システム構成・方式選択 | 難易度：基礎

主要サービスはデータセンタ単位の障害でも4時間以内に復旧する必要がある。単一リージョン内の複数AZだけでは要件を満たせないと評価された。次に検討すべき構成はどれか。

- ア．別リージョンへのデータ複製と切替手順を持つDR構成。
- イ．同一AZ内だけでサーバ台数を増やす。
- ウ．監視を廃止して障害検知を遅らせる。
- エ．バックアップを同じ障害ドメインだけに置く。

答え・解説

正答：ア

ア：リージョン障害から復旧するには別障害ドメインの代替資源が必要である。
イ：同一AZ障害には弱い。
ウ：復旧時間を悪化させる。
エ：同時被災する可能性がありDRにならない。
総合解説：障害想定範囲と冗長化単位を一致させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0042

要件・方式判断 > システム構成・方式選択 | 難易度：標準

利用者が数GBの動画をアップロードする。アプリサーバを経由すると帯域と一時ディスクが逼迫する。クラウド利用時の構成として適切なのはどれか。

- ア．全動画をアプリサーバのメモリへ読み込んでから保存する。
- イ．認可後に期限付きアップロードURLを発行し、利用者からオブジェクトストレージへ直接転送させる。
- ウ．動画をDBの1行に全て格納し、アプリ経由だけにする。
- エ．アップロード中は他利用者の処理を停止する。

答え・解説

正答：イ

ア：メモリ・帯域消費が過大になる。
イ：データプレーンをアプリから分離し、認可はアプリ、転送はストレージへ任せられる。
ウ：大容量BLOBの扱いがボトルネックになりやすい。
エ：可用性と並行性を損なう。
総合解説：制御経路と大容量データ経路を分離する構成判断である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0043

要件・方式判断 > システム構成・方式選択 | 難易度：標準

保守員用モバイルアプリは圏外でも点検結果を登録し、再接続後に中央システムへ反映する必要がある。同じ設備を別端末が更新する場合もある。適切な方式はどれか。

- ア．圏外時の入力を全て破棄する。
- イ．再接続時は無条件に端末値で中央データを上書きする。
- ウ．端末に一時保存し、再接続時にバージョン等で競合を検出して解決規則に従い同期する。
- エ．中央システムと通信できない限り画面を起動できないようにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：業務要件に反する。
イ：他端末の更新を失う危険がある。
ウ：オフライン要件と同時更新を両立するには競合検出・解決が必要である。
エ：圏外作業を要求している事例と矛盾する。
総合解説：分散更新では同期だけでなく競合方針を設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0044

要件・方式判断 > システム構成・方式選択 | 難易度：基礎

店舗在庫をEC販売可否判定に使い、売切れ商品の受注を極力防ぐため在庫変動を1分以内に反映したい。現状の日次バッチ連携を見直す方式として適切なのはどれか。

- ア．日次バッチのまま翌日に反映する。
- イ．在庫連携を停止してEC側で固定値を使う。
- ウ．在庫数を毎月手入力する。
- エ．在庫変動イベントや短周期差分連携で更新を伝え、障害時の再送・再同期手段を持つ。

答え・解説

正答：エ

ア：鮮度要求を満たさない。
イ：販売可否の正確性を失う。
ウ：更新頻度が要件に合わない。
エ：鮮度要件1分以内に合わせて連携頻度と障害回復を設計する。
総合解説：データ鮮度は処理方式選択の主要因である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0045

要件・方式判断 > システム構成・方式選択 | 難易度：応用

複数の社内サービスを取引先へAPI公開し、認証、レート制限、監査、バージョン管理を共通化したい。最も適切な構成要素はどれか。

- ア．外部入口にAPIゲートウェイ等の共通制御層を設け、各サービスヘルレーティングする。
- イ．各サービスを無認証で直接インターネット公開する。
- ウ．全APIを同一巨大テーブルへのSQL直接接続として公開する。
- エ．取引先ごとに別ソースコードを複製して管理する。

答え・解説

正答：ア

ア：共通ポリシーを一元適用しつつバックエンドを分離できる。
イ：セキュリティ・運用上のリスクが高い。
ウ：DB内部を外部契約にすると結合度と危険性が高い。
エ：重複と変更コストが増える。
総合解説：共通横断機能と業務サービスの責務を分離する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0046

要件・方式判断 > システム構成・方式選択 | 難易度：標準

数百万件の商品説明を日本語全文検索し、関連度順・ファセット絞込みを高速に提供したい。更新は数分遅延してもよい。適切な構成はどれか。

- ア．全検索を業務DBのLIKE前方一致だけで行う。
- イ．業務DBを正本とし、検索用インデックスへ非同期反映して検索処理を分離する。
- ウ．商品説明を画像化してDB検索不能にする。
- エ．検索のたびに全商品をアプリへ読み込み総当たりする。

答え・解説

正答：イ

ア：大規模全文検索の要件を満たしにくい。
イ：検索専用インデックスは全文検索・関連度・絞込みに適し、数分の遅延許容にも合う。
ウ：検索性を失う。
エ：処理量が非現実的である。
総合解説：機能特性に合う専用コンポーネントを使い、正本との同期条件を設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0047

要件・方式判断 > システム構成・方式選択 | 難易度：基礎

月次分析SQLが数十分走り、その間オンライン受注DBのI/O待ちが増える。分析は前日までのデータでよい。適切な構成はどれか。

ア．分析SQLを受注処理と同じ本番DBでさらに並列実行する。

イ．オンライン受注を止めて分析時間を確保する。

ウ．分析用DBやデータウェアハウスへデータを複製し、重い集計をOLTPから分離する。

エ．分析機能を利用者PCの表計算だけに移す。

答え・解説

正答：ウ

ア：I/O競合が悪化する可能性が高い。

イ：主要業務可用性を損なう。

ウ：鮮度要件が緩いため、読取分析負荷を分離してOLTPを保護できる。

エ：データ量・統制・再現性に課題がある。

総合解説：ワークロード特性が異なる場合は基盤を分離する判断が有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0048

要件・方式判断 > システム構成・方式選択 | 難易度：標準

Webアプリを複数台に自動スケールさせたいが、セッション情報を各サーバのローカルメモリに保存しているため、振分け先変更でログイン状態が失われる。改善案として適切なのはどれか。

ア．LBで毎回ランダムに異なるサーバへ振り分け、ローカルセッションは維持する。

イ．サーバ台数を1台に固定する。

ウ．セッション情報を利用者に平文で全て保持させる。

エ．セッションを共有ストア等へ外出しするか、トークン方式にしてサーバをできるだけステートレス化する。

答え・解説

正答：エ

ア：ローカル状態と相性が悪くセッション喪失が増える。

イ：スケーラビリティ要求を捨てている。

ウ：機密性・改ざん耐性に問題がある。

エ：状態を外部化するとインスタンス追加・交換に強くなる。

総合解説：水平スケールでは状態の置き場所が重要な方式判断となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0049

要件・方式判断 > システム構成・方式選択 | 難易度：標準

融資申込の審査は複数外部機関照会を含み最長20分かかる。利用者は受付完了後に画面を閉じてもよく、結果は後で確認できればよい。適切な方式はどれか。

ア．受付で処理IDを発行し、審査を非同期ワークフローとして実行し、状態・再試行を永続管理する。

イ．HTTP接続を20分間必ず維持し、途中障害時は最初から全処理をやり直す。

ウ．審査状態をメモリだけに保存する。

エ．外部照会失敗を無視して承認扱いにする。

答え・解説

正答：ア

ア：長時間処理をリクエスト寿命から分離し、状態と再試行を管理できる。

イ：接続切断やタイムアウトに弱い。

ウ：プロセス障害で状態を失う。

エ：業務統制上不適切である。

総合解説：長時間・多段処理では永続的な状態管理と非同期化が有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0050

要件・方式判断 > 代替案比較・トレードオフ | 難易度：応用

複数拠点で在庫予約を処理する。ネットワーク分断中に両拠点が同じ最後の1個を予約すると二重販売になるため、在庫の厳密な一貫性を優先したい。分断時の方針として適切なのはどれか。

ア．両拠点で無条件に更新を受け付け、後で二重販売を人手調整する。

イ．一貫性を保証できない拠点の予約更新を一時停止するなど、更新可用性を犠牲にして競合を防ぐ。

ウ．在庫数を各拠点で独立管理し同期しない。

エ．分断検知を行わず、常に両方が正しいとみなす。

答え・解説

正答：イ

ア：業務要件で避けたい二重販売を許している。

イ：厳密な整合性を優先するなら分断時に一部更新を拒否する設計が合理的である。

ウ：単一在庫という業務意味が崩れる。

エ：競合を検知・制御できない。

総合解説：トレードオフ問題では、事例がどの品質属性を優先するかを根拠に選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0051

要件・方式判断 > 代替案比較・トレードオフ | 難易度：基礎

給与計算は法改正追隨が頻繁で標準機能で業務の95%を満たすパッケージがある。一方、独自業務は少ない。最も妥当な評価はどれか。

ア．個別開発は常に最安なので比較不要とする。

イ．パッケージは機能が多いほど必ず適切と判断する。

ウ．パッケージ適合率、法改正対応、カスタマイズ影響、ロックイン、総保有コストを比較し、標準利用を優先候補とする。

エ．初期費用だけで決め、運用・改修費を評価しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：開発・保守コストは案件によって異なる。

イ：機能数だけでは適合性は決まらない。

ウ：適合度と長期保守を含む複数観点で比較するのが妥当である。

エ：ライフサイクルコストを無視している。

総合解説：Build/Buyは初期費用だけでなく変更頻度、標準化、保守責任を比較する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0052

要件・方式判断 > 代替案比較・トレードオフ | 難易度：標準

注文確定時にクレジット決済の承認結果が得られない限り、利用者へ注文成立を通知してはならない。決済事業者の応答は通常1秒以内である。基本方式として適切なのはどれか。

ア．決済結果を確認せず注文成立を即時通知する。

イ．決済承認を翌日のバッチまで待つ。

ウ．決済失敗も成功として扱う。

エ．注文成立判定に必要な決済承認は同期的に取得し、タイムアウトや不明時の状態を明確にする。

答え・解説

正答：エ

ア：未承認注文を成立扱いするリスクがある。

イ：利用者体験と業務要件に合わない。

ウ：整合性を破壊する。

エ：業務上の確定条件が同一応答内に必要なので同期が基本となる。

総合解説：同期/非同期は、結果が業務トランザクションの成立条件かで判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0053

要件・方式判断 > 代替案比較・トレードオフ | 難易度：標準

受注更新は正規化されたOLTPで整合性を重視する一方、集計画面では多数の結合が性能課題となっている。適切な改善方針はどれか。

ア．正本は正規化を維持し、必要に応じて集計用ビュー・キャッシュ・分析用非正規化データを別途用意する。

イ．正本の全制約を削除し全データを1表へ統合する。

ウ．性能問題を理由に主キーを廃止する。

エ．集計画面を廃止する。

答え・解説

正答：ア

ア：更新整合性と読取性能の要求を役割分担で両立できる。

イ：更新異常やデータ重複を招く。

ウ：識別・参照整合性を損なう。

エ：業務要求を満たさない。

総合解説：一つのデータモデルで全ワークロードを最適化しようとせず、用途別に分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0054

要件・方式判断 > 代替案比較・トレードオフ | 難易度：基礎

社内分析システムはRTO8時間で、停止中は業務を手作業で代替できる。高価な常時稼働アクティブ・アクティブ構成と、安価な待機系構成を比較する際の判断として適切なのはどれか。

ア．最も高価な構成が常に正解である。

イ．RTO、切替時間、データ復旧、運用負荷、コストを比較し、要件を満たす最小十分な構成を選ぶ。

ウ．コストだけで選びRTOを無視する。

エ．冗長化方式は可用性要件と無関係である。

答え・解説

正答：イ

ア：過剰品質になる可能性がある。

イ：品質目標を満たしつつ過剰投資を避けるのが方式評価である。

ウ：業務継続要件を満たせない可能性がある。

エ：構成方式はRTOに大きく影響する。

総合解説：非機能要件は「高ければよい」ではなく費用対効果と整合させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0055

要件・方式判断 > 代替案比較・トレードオフ | 難易度：応用

開発チームは8人、業務領域は単純で、独立リリース要求は弱い。将来拡張を理由に最初から数十マイクロサービスへ分割する案が出た。適切な評価はどれか。

ア．マイクロサービスは新しいので必ず採用する。

イ．サービス数は多いほど保守性が必ず上がる。

ウ．独立展開・スケール・組織分割の必要性和分散トランザクション・監視・運用複雑性を比較し、モジュラモノリスも候補にする。

エ．運用監視や障害切り分けのコストは評価不要とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：流行だけでは適合性を説明できない。

イ：過度な分割は複雑性を増す。

ウ：メリットが必要条件に合うか、分散化コストと合わせて判断する。

エ：分散システムでは運用コストが重要である。

総合解説：アーキテクチャパターンは目的に対する便益と副作用で比較する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0056

要件・方式判断 > 代替案比較・トレードオフ | 難易度：標準

商品価格をキャッシュすると応答は速くなるが、価格変更は5分以内に利用者へ反映する必要がある。キャッシュ設計として適切なのはどれか。

ア．TTLを24時間固定し、価格変更通知も行わない。

イ．キャッシュを永久保持する。

ウ．価格変更時も古い値を正とする。

エ．TTLや更新時無効化を組み合わせ、最悪でも5分以内の鮮度を満たすことを検証する。

答え・解説

正答：エ

ア：最大24時間の陳腐化が起こり得る。

イ：要件違反となる。

ウ：業務上の正しい価格を反映できない。

エ：性能効果と鮮度要件を両立する失効方式を設計している。

総合解説：キャッシュは速度だけでなく整合性・失効条件まで評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0057

要件・方式判断 > 代替案比較・トレードオフ | 難易度：基礎

拠点間回線が細く、送信データ圧縮で転送量を60%削減できるが、送信側CPU使用率が20ポイント上がる。CPUには十分な余裕がある。適切な判断はどれか。

- ア．CPU余力、圧縮による遅延、帯域削減効果を計測し、全体応答が改善するなら採用する。
- イ．帯域削減だけを見て無条件採用する。
- ウ．CPU増加だけを見て無条件不採用にする。
- エ．測定せず理論値だけで決める。

答え・解説

正答：ア

ア：ボトルネック資源と副作用を実測して全体最適を判断する。

イ：圧縮遅延が大きい可能性を無視している。

ウ：CPU余力があるため全体改善の可能性を捨てている。

エ：実ワークロードでの効果を確認できない。

総合解説：性能設計では資源間のトレードオフを全体応答で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0058

要件・方式判断 > 代替案比較・トレードオフ | 難易度：標準

機微情報を暗号化して保存したいが、業務では顧客番号の完全一致検索が必要である。適切な検討はどれか。

- ア．暗号化すれば検索要件は無視してよい。
- イ．検索要件を限定し、トークン化や検索用ハッシュ等も含め、機密性・鍵管理・照合要件を満たす方式を比較する。
- ウ．検索のため全機微情報を平文保存する。
- エ．暗号鍵をDBと同じ表に平文保存する。

答え・解説

正答：イ

ア：業務機能を失う。

イ：機密性と利用機能の両方を満たす代替方式を比較する。

ウ：機密性要件を満たさない。

エ：鍵漏えいで暗号化の効果を失う。

総合解説：セキュリティ要求は利用性とのトレードオフを含め方式化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0059

要件・方式判断 > 代替案比較・トレードオフ | 難易度：標準

経営ダッシュボードは「2時間以内のデータなら十分」とされる。現在5分ごとに全量集計してクラウド費用が高い。改善案として適切なのはどれか。

ア．鮮度要求を無視して1日1回にする。

イ．5分ごと全量を固定しコストは評価しない。

ウ．2時間の鮮度要件を満たす範囲で差分処理や実行頻度を見直し、費用と処理余力を評価する。

エ．集計処理を停止する。

答え・解説

正答：ウ

ア：2時間以内を満たせない時間帯が生じる。

イ：過剰品質の可能性を放置する。

ウ：必要以上の鮮度を削減し、業務要件を満たす範囲でコスト最適化できる。

エ：業務機能を失う。

総合解説：頻度は鮮度要求・データ量・費用のバランスで決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0060

要件・方式判断 > 代替案比較・トレードオフ | 難易度：応用

10システムが相互に個別ファイル連携し、項目追加のたびに多数の組合せ修正が発生している。改善方針として適切なのはどれか。

ア．さらに点对点連携を増やし、仕様書は各担当だけが持つ。

イ．全システムが相手DBへ直接書き込む。

ウ．変更通知をせず各システムが相手変更を推測する。

エ．共通データ定義やAPI/メッセージ契約、統合基盤の適用範囲を整理し、点对点依存を減らす。

答え・解説

正答：エ

ア：変更影響がさらに増える。

イ：データ所有境界を破壊し強結合になる。

ウ：互換性を維持できない。

エ：共通契約と変更管理で組合せ依存を減らせる。

総合解説：連携数増加時は結合度と変更波及を評価し、標準化・ハブ化を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0061

非機能・問題分析 > 性能・容量・ボトルネック | 難易度：基礎

あるAPIは平均200リクエスト/秒を処理し、平均応答時間は0.4秒である。安定状態を仮定したとき、同時に処理中のリクエスト数の概算として最も近いものはどれか。

- ア．Littleの法則を用い、200件/秒×0.4秒から同時処理数を約80件とする。
- イ．平均応答時間を4分の1と取り違えて計算し、約20件とする。
- ウ．到着率を応答時間で割り、同時処理数を約500件とする。
- エ．秒を別単位へ誤変換して到着率に掛け、約800件とする。

答え・解説

正答：ア

ア：Littleの法則の考え方で、平均滞留数 到着率200×平均時間0.4=80である。

イ：200×0.1に相当し条件と合わない。

ウ：200÷0.4であり同時数の関係式ではない。

エ：200×4に相当し時間単位を誤っている。

総合解説：性能事例では単位をそろえ、到着率・応答時間・同時数の関係を使って容量を見積もる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0062

非機能・問題分析 > 性能・容量・ボトルネック | 難易度：標準

応答遅延時もDB CPUは35%だが、トランザクションのlock waitが平常時の20倍である。最初に調査すべきものはどれか。

- ア．CPUコア数不足だけ。
- イ．長時間トランザクション、更新順序、ホット行などロック競合要因。
- ウ．画面のCSSファイルサイズ。
- エ．DNSキャッシュ時間だけ。

答え・解説

正答：イ

ア：CPU35%だけではCPU飽和を示さない。

イ：CPU余裕がある一方ロック待ちが急増しており競合が有力である。

ウ：DBロック待ちを説明しない。

エ：今回の主要指標と因果が弱い。

総合解説：利用率だけでなく待ちイベントを読むとボトルネックを特定しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0063

非機能・問題分析 > 性能・容量・ボトルネック | 難易度：標準

アプリCPUは低いですが、ピーク時に「DB connection pool timeout」が増え、DB自体のCPUも50%以下である。接続プールの上限50に対し常時50使用中だった。最も妥当な対策検討はどれか。

ア．CPUが低いので障害ではないと判断する。

イ．プール上限を無制限にする。

ウ．接続保持時間やリーク、長時間クエリを調査し、DB許容量を踏まえてプールサイズも評価する。

エ．タイムアウトログを削除する。

答え・解説

正答：ウ

ア：CPU以外の資源枯渇でも遅延は起こる。

イ：DB側最大接続やメモリを超える危険がある。

ウ：ボトルネックは接続資源であり、原因と安全な上限を評価する必要がある。

エ：原因解消にならない。

総合解説：接続数は有限資源であり、利用時間×同時要求から設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0064

非機能・問題分析 > 性能・容量・ボトルネック | 難易度：基礎

イベント処理でキュー遅延が平常5秒から30分へ増加した。プロデューサは毎秒1,000件、コンシューマ合計は毎秒800件で安定している。最も有効な一次対策はどれか。

ア．プロデューサを毎秒1,500件へ増やす。

イ．キューの監視を停止する。

ウ．コンシューマを減らす。

エ．コンシューマ処理能力を1,000件/秒超へ引き上げるか、入力を制御して滞留を解消する。

答え・解説

正答：エ

ア：滞留がさらに増える。

イ：遅延は解消しない。

ウ：処理能力がさらに低下する。

エ：定常流入が処理能力を上回るため能力差を解消する必要がある。

総合解説：キュー系の容量設計では平均だけでなくピークと回復能力を持たせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0065

非機能・問題分析 > 性能・容量・ボトルネック | 難易度：応用

平均応答時間は0.8秒だが、利用者から「時々10秒以上待つ」と苦情がある。性能実態を把握するため追加で最も有効な指標はどれか。

- ア．p95・p99など応答時間分布の上位パーセンタイル。
- イ．平均値だけをさらに小数点以下まで表示する。
- ウ．サーバ台数だけ。
- エ．ソースコード行数。

答え・解説

正答：ア

ア：尾部遅延は平均に埋もれるため分位点が有効である。

イ：分布の偏りを捉えられない。

ウ：台数だけでは利用者遅延を直接示さない。

エ：性能実態との相関が弱い。

総合解説：性能要件・監視では平均だけでなく尾部遅延を扱うことが多い。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0066

非機能・問題分析 > 性能・容量・ボトルネック | 難易度：標準

現在のピークCPUは60%、取引量は年40%増加予測で、処理効率は同じと仮定する。来年も現構成のままならCPUは単純比例で約84%となる。適切な対応はどれか。

- ア．84%になるまで計測を停止する。
- イ．ピーク余裕、スケール方式、増設リードタイムを踏まえ、飽和前に容量拡張計画を立てる。
- ウ．60%なので将来も必ず60%とみなす。
- エ．取引増加予測を無視する。

答え・解説

正答：イ

ア：問題の発見を遅らせる。

イ：将来需要と安全余裕を見て事前に容量を確保する。

ウ：処理量増加の仮定と矛盾する。

エ：容量計画にならない。

総合解説：容量管理は現状だけでなく成長率と調達時間を含める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0067

非機能・問題分析 > 性能・容量・ボトルネック | 難易度：基礎

一覧100件表示で、一覧取得SQL1回の後、各行ごとに詳細SQLが1回ずつ実行され合計101回のDBアクセスになっている。件数増加で遅くなった。改善案として適切なのはどれか。

ア．各行のSQLをさらに2回ずつ実行する。

イ．DBアクセス回数を記録しない。

ウ．必要データを結合・一括取得・バッチフェッチ等でまとめ、DB往復回数を削減する。

エ．一覧件数を無制限に増やす。

答え・解説

正答：ウ

ア：負荷を増やす。

イ：原因把握を妨げる。

ウ：N+1アクセスは往復回数が件数に比例して増えるためまとめるのが有効である。

エ：症状を悪化させる。

総合解説：アプリとDB間の呼出し回数も重要な性能要因である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0068

非機能・問題分析 > 性能・容量・ボトルネック | 難易度：標準

DBサーバでCPU30%、メモリ余裕ありだが、ディスク平均待ち20ms、キュー深度が継続的に高く、ランダム読取IOPSがストレージ上限付近である。ボトルネックとして最も疑うべきものはどれか。

ア．CPU演算能力。

イ．メモリ容量。

ウ．画面描画性能。

エ．ストレージI/O能力。

答え・解説

正答：エ

ア：CPUは余裕がある。

イ：メモリ不足の兆候がない。

ウ：サーバ側I/O待ちを説明しない。

エ：I/O指標が飽和を示している。

総合解説：資源ごとの飽和指標を確認し、どこで待ちが発生しているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0069

非機能・問題分析 > 性能・容量・ボトルネック | 難易度：標準

Javaアプリで通常CPU50%だが、数分おきに応答が数秒停止する。同時刻にFull GCが発生し、ヒープ使用量が上限近くまで増えている。次の調査として適切なのはどれか。

- ア．オブジェクト保持、ヒープ設定、GCログを分析し、メモリリークや過剰割当てを確認する。
- イ．DBを無条件に増強する。
- ウ．ネットワークケーブルだけ交換する。
- エ．GCログを無効化する。

答え・解説

正答：ア

ア：停止時刻とFull GCが一致しておりランタイムメモリ要因が有力である。
イ：DB指標の根拠がない。
ウ：ネットワーク障害の証拠がない。
エ：原因分析に必要な証跡を失う。
総合解説：時刻相関のあるランタイムイベントを利用して原因候補を絞る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0070

非機能・問題分析 > 性能・容量・ボトルネック | 難易度：応用

APIサーバCPUは40%、DB応答も速いが、1レスポンス平均8MBで回線使用率が95%に達し、ピーク時だけ遅延する。改善の第一候補はどれか。

- ア．CPUコアだけを倍増する。
- イ．必要項目だけ返す、圧縮・ページングを行うなどペイロード削減を検討する。
- ウ．DBインデックスを全削除する。
- エ．レスポンスをさらに大きくする。

答え・解説

正答：イ

ア：CPUはボトルネックではない。
イ：ネットワーク帯域が飽和し、転送量削減が直接効く。
ウ：DB性能を悪化させる可能性がある。
エ：帯域不足を悪化させる。
総合解説：通信量もシステム全体の容量要因である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0071

非機能・問題分析 > 性能・容量・ボトルネック | 難易度：基礎

夜間バッチを8並列へ増やしたところ、4並列より処理時間が長くなりDBロック待ちが急増した。適切な対応はどれか。

- ア．並列度を無制限に増やす。
- イ．ロック待ちを無視する。
- ウ．並列度ごとのスループットと競合を測り、データ分割や更新順序を見直して最適並列度を決める。
- エ．バッチを全て単一巨大トランザクションにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：競合がさらに悪化し得る。
イ：実際の遅延原因を無視している。
ウ：並列化には競合増加の副作用があり最適点を測る必要がある。
エ：ロック保持時間が長くなる可能性が高い。
総合解説：並列度は高いほど良いわけではなく共有資源競合と合わせて調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0072

非機能・問題分析 > 性能・容量・ボトルネック | 難易度：標準

分散DBを顧客地域でパーティション分割したが、全取引の65%が首都圏パーティションへ集中し、そのノードだけCPU90%を超える。適切な改善はどれか。

- ア．ノード数を増やしてもデータ分布は変えない。
- イ．首都圏データだけ削除する。
- ウ．監視から首都圏ノードを除外する。
- エ．アクセス分布を踏まえてパーティションキーや分割方法を見直し、負荷を均等化する。

答え・解説

正答：エ

ア：偏った配置のままでは特定ノード集中が残る可能性がある。
イ：業務データを失う。
ウ：問題を見えなくするだけである。
エ：偏りが原因ならキー設計や再分割が本質的対策である。
総合解説：分散処理では平均負荷ではなくキー偏り・ホットスポットを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0073

非機能・問題分析 > 可用性・障害・復旧 | 難易度：標準

受注DBのRPOは5分であるが、現状は1日1回フルバックアップだけで、障害時には最大24時間分を失う可能性がある。改善として適切なのはどれか。

ア．トランザクションログ転送や継続レプリケーション等を用い、5分以内のデータ損失目標を満たす方式を設計する。

イ．日次フルバックアップだけを継続する。

ウ．RPOの定義を変更せず24時間損失を許容する。

エ．バックアップを廃止する。

答え・解説

正答：ア

ア：現方式はRPOを満たさず、より短い復旧点を確保する必要がある。

イ：最大24時間損失で要件違反となる。

ウ：目標と実態が矛盾する。

エ：復旧可能性を失う。

総合解説：RPOは「どこまでのデータ時点へ戻れるか」の設計目標である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0074

非機能・問題分析 > 可用性・障害・復旧 | 難易度：基礎

待機系はあるが、障害検知から切替完了まで手動作業で平均3時間かかる。業務RTOは30分である。最も適切な改善はどれか。

ア．待機系が存在するのでRTOは自動的に満たすとみなす。

イ．自動または半自動フェイルオーバー、手順簡素化、定期訓練により30分以内を実証する。

ウ．障害検知を遅くする。

エ．切替訓練を廃止する。

答え・解説

正答：イ

ア：現状3時間で明確に未達である。

イ：冗長資源の存在ではなく実際の復旧時間がRTOを満たす必要がある。

ウ：RTOを悪化させる。

エ：実行可能性を検証できない。

総合解説：可用性は構成だけでなく検知・判断・切替・検証を含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0075

非機能・問題分析 > 可用性・障害・復旧 | 難易度：応用

Webとアプリは各2台だが、認証サーバが1台で、認証障害時は全利用者がログインできない。最も適切な評価はどれか。

- ア．Webが2台なのでシステム全体にSPOFはない。
- イ．認証は利用開始時だけなので可用性評価不要である。
- ウ．認証サーバがサービス全体の単一障害点なので、可用性要件に応じて冗長化や代替方式を検討する。
- エ．認証障害時は全利用者のパスワードを共有する。

答え・解説

正答：ウ

ア：一部層の冗長化だけでは全体可用性を保証できない。
イ：ログイン不可はサービス提供に重大な影響がある。
ウ：依存先1台の故障でサービス利用不能となる。
エ：セキュリティを破壊する。
総合解説：エンドツーエンドの依存関係でSPOFを探す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0076

非機能・問題分析 > 可用性・障害・復旧 | 難易度：標準

2ノードクラスタで通信断が起き、両ノードが自分を主系と判断して同じ共有データへ書き込みを始めた。最も重要な対策はどれか。

- ア．両ノードの同時書き込みを常に許可する。
- イ．通信断時は監視ログだけ削除する。
- ウ．両ノードの時計表示を同じ色にする。
- エ．クォーラムやフェンシング等で主系を一意に決め、旧主系の書き込みを確実に停止する。

答え・解説

正答：エ

ア：競合更新を許し整合性を損なう。
イ：原因・影響を隠すだけである。
ウ：技術的対策にならない。
エ：二重主系によるデータ破壊を防ぐには所有権を一意にする必要がある。
総合解説：HAクラスタでは障害時の主系決定とフェンシングが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0077

非機能・問題分析 > 可用性・障害・復旧 | 難易度：基礎

アプリ自身のプロセスは生きているが、必須DBへ接続できない状態でもLBのヘルスチェックが成功し、利用者リクエストが失敗している。改善として適切なのはどれか。

- ア．LBから切り離すためのready判定に、サービス提供に必須な依存先の利用可否を適切に反映する。
- イ．プロセスが起動していれば常に正常と判定する。
- ウ．ヘルスチェックを廃止する。
- エ．DB障害時でもHTTP 200だけ返す。

答え・解説

正答：ア

ア：サービスとして処理可能かを判定する必要がある。

イ：実際の提供能力と判定がずれる。

ウ：障害ノードへ流量を送り続ける。

エ：利用者には成功に見え障害を隠す。

総合解説：livenessとreadinessを使い分け、依存性を過不足なく反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0078

非機能・問題分析 > 可用性・障害・復旧 | 難易度：標準

外部決済APIが障害になると、各アプリが即時に無制限再試行し、復旧直後に負荷が集中して再度障害になる。改善策として適切なのはどれか。

- ア．失敗時は待ち時間ゼロで永久に再試行する。
- イ．指数バックオフ、ジッタ、最大再試行回数、サーキットブレーカ等で再試行を制御する。
- ウ．全利用者リクエストを同時刻に再送する。
- エ．外部API障害時も成功扱いにする。

答え・解説

正答：イ

ア：典型的なretry stormを起こす。

イ：障害時の負荷増幅を抑え、復旧余地を確保する。

ウ：負荷同期をさらに悪化させる。

エ：業務整合性を失う。

総合解説：障害回復設計では再試行そのものが新たな障害源にならないよう制御する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0079

非機能・問題分析 > 可用性・障害・復旧 | 難易度：標準

毎日バックアップ成功メールが届くが、過去2年間一度も復元テストをしていない。災害対策上の問題として最も適切なものはどれか。

ア．成功メールがあるので復元テストは不要である。

イ．バックアップファイル数が多いほど必ず復旧できる。

ウ．バックアップ取得成功だけでは復元可能性・復旧時間を保証できず、定期的な復元テストが必要である。

エ．復元手順書は作成せず担当者の記憶に任せる。

答え・解説

正答：ウ

ア：取得と復元は別の成功条件である。

イ：破損や依存情報欠落を検知できない。

ウ：実復元でデータ・手順・時間を確認しなければ復旧能力は実証できない。

エ：属人化し継続性が低い。

総合解説：BCPでは「取れた」だけでなく「戻せる」を検証する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0080

非機能・問題分析 > 可用性・障害・復旧 | 難易度：応用

同一リージョンの3AZへ冗長化している。要件に「リージョン全体が利用不能でも24時間以内にサービス再開」が追加された。追加検討として適切なものはどれか。

ア．同一AZ内のサーバだけ増やす。

イ．AZ数を3から2へ減らす。

ウ．障害想定からリージョン障害を削除する。

エ．別リージョンへのバックアップまたは待機環境と、切替・データ復旧手順を設計する。

答え・解説

正答：エ

ア：より狭い障害ドメイン内の増強である。

イ：耐障害性が低下する。

ウ：要件を設計側都合で削除している。

エ：リージョン障害は同一リージョン内冗長だけでは吸収できない。

総合解説：冗長化の範囲を障害シナリオの範囲に合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0081

非機能・問題分析 > 可用性・障害・復旧 | 難易度：基礎

注文登録APIは応答送信直前に通信断が起こることがあり、利用者側が同じ要求を再送すると注文が二重登録される。適切な対策はどれか。

- ア．要求ID等による冪等性制御を設け、同一要求の再送では同じ結果を返す。
- イ．再送を全て新規注文として登録する。
- ウ．通信断時はDBを初期化する。
- エ．利用者に再送禁止を伝えるだけでシステム側対策はしない。

答え・解説

正答：ア

ア：通信障害による「処理済みだが応答不明」を安全に扱える。
イ：二重登録を継続する。
ウ：データを破壊する。
エ：ネットワーク障害時の確実な対策にならない。
総合解説：分散処理の再試行では冪等性や重複排除が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0082

非機能・問題分析 > 可用性・障害・復旧 | 難易度：標準

レコメンド機能が停止しても商品購入は継続できるが、現状はレコメンド障害で商品詳細画面全体がエラーになる。可用性向上策として適切なのはどれか。

- ア．レコメンドが復旧するまで全購入を停止する。
- イ．レコメンド障害時は推薦部分を非表示または既定値にし、購入の主要経路は継続する。
- ウ．商品DBを削除する。
- エ．障害を利用者へ通知せず無限待機させる。

答え・解説

正答：イ

ア：事業影響を不必要に拡大する。
イ：非中核機能の障害を主要業務へ波及させない縮退設計である。
ウ：業務機能を破壊する。
エ：利用者体験と資源消費を悪化させる。
総合解説：機能重要度に応じて分離・縮退することで可用性を高められる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0083

非機能・問題分析 > 可用性・障害・復旧 | 難易度：標準

注文処理は認証サービスと決済サービスの両方が成功しなければ成立しない。各サービス可用性が99.9%でも、全体は単純に99.9%とは限らない。評価として適切なのはどれか。

ア．各サービスの中で最も高い可用性だけを全体値とする。

イ．依存関係は無視しアプリサーバだけ評価する。

ウ．直列依存するサービスの停止が全体へ与える影響を考慮し、エンドツーエンドで可用性を評価する。

エ．全体可用性はサーバ台数だけで決まる。

答え・解説

正答：ウ

ア：必須依存の障害を無視している。

イ：利用者視点のサービス可用性にならない。

ウ：複数必須依存の可用性は組合せで決まり、全経路を評価する必要がある。

エ：台数以外の依存故障もある。

総合解説：サービスSLAは構成要素ではなく利用者経路全体で確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0084

非機能・問題分析 > 可用性・障害・復旧 | 難易度：基礎

24時間サービスで、アプリ更新時の停止を避けたい。アプリは複数台でセッション外部化済みである。適切な更新方式はどれか。

ア．全台を同時停止して更新する。

イ．新旧版の互換性を確認せずランダムにDBスキーマを変更する。

ウ．更新中は監視を停止する。

エ．ローリング更新やBlue-Green等で一部ずつ切り替え、ヘルスチェック後に流量を移す。

答え・解説

正答：エ

ア：停止が発生する。

イ：互換性問題で障害を起こしやすい。

ウ：異常検知ができない。

エ：冗長構成を活用しサービス継続しながら更新できる。

総合解説：計画保守も可用性設計の一部であり、切替とロールバックを設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0085

非機能・問題分析 > セキュリティ・運用・品質 | 難易度：応用

帳票サービスは顧客DBから氏名と住所を読むだけだが、現在DB管理者権限を付与されている。改善として最も適切なのはどれか。

- ア．帳票処理に必要な表・操作だけを許可する専用サービスアカウントへ変更する。
- イ．管理者権限を全サービスへ統一する。
- ウ．認証を廃止する。
- エ．帳票サービスへDB削除権限も追加する。

答え・解説

正答：ア

ア：必要最小限の権限へ限定して侵害時の影響を抑える。
イ：権限過大を拡大する。
ウ：不正アクセスの危険を高める。
エ：業務上不要な破壊権限である。
総合解説：最小権限はシステム間アカウントにも適用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0086

非機能・問題分析 > セキュリティ・運用・品質 | 難易度：標準

外部APIキーがソースコードに直書きされ、Gitリポジトリへコミットされている。改善策として適切なのはどれか。

- ア．リポジトリを非公開にするだけで直書きを継続する。
- イ．秘密管理サービス等へ移し、実行時に必要な主体だけ取得できるようにし、漏えいしたキーはローテーションする。
- ウ．キーをコメント欄へ移す。
- エ．全環境で同じキーを永久利用する。

答え・解説

正答：イ

ア：誤共有や内部漏えいへの耐性が不十分である。
イ：コードと秘密を分離し、アクセス制御・更新可能性を持たせる。
ウ：依然としてソース内に残る。
エ：漏えい時の影響が長期化する。
総合解説：シークレットはコード・設定履歴から分離し、ローテーション可能にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0087

非機能・問題分析 > セキュリティ・運用・品質 | 難易度：基礎

管理者が不正操作後に同じサーバ上の監査ログを削除できる構成である。改善として適切なのはどれか。

ア．監査ログを管理者だけが自由に削除できるようにする。

イ．ログをローカル一時ファイルだけに保存する。

ウ．監査ログを権限分離した集中ログ基盤へ転送し、改ざん・削除を制限して保持する。

エ．監査ログを記録しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不正操作の隠蔽が容易になる。

イ：侵害・故障時に同時消失しやすい。

ウ：操作主体とログ管理主体を分離し証拠保全性を高める。

エ：追跡性を失う。

総合解説：監査ログは収集項目だけでなく保護・保持・アクセス権まで設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0088

非機能・問題分析 > セキュリティ・運用・品質 | 難易度：標準

サーバCPUは正常なのに利用者から「注文できない」と連絡が多発した。運用監視を改善するため、CPU監視に加えて最も重要な指標はどれか。

ア．サーバ筐体の色。

イ．ソースコード行数。

ウ．開発者の出社人数。

エ．注文成功率、エラー率、応答時間など利用者の主要処理結果を表すサービス指標。

答え・解説

正答：エ

ア：サービス可否を示さない。

イ：運用時の利用者影響を直接表さない。

ウ：システム品質の指標ではない。

エ：利用者が受けるサービス品質を直接捉えるSLIが必要である。

総合解説：監視は資源指標とユーザ視点のサービス指標を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0089

非機能・問題分析 > セキュリティ・運用・品質 | 難易度：標準

新バージョンを全利用者へ一斉配布した際、障害発見まで30分かかり影響が拡大した。改善策として適切なものはどれか。

ア．カナリア配信などで対象を段階的に増やし、主要指標を監視して異常時に迅速にロールバックする。

イ．今後も全量一斉配布し監視を行わない。

ウ．異常時も旧版へ戻せない設計にする。

エ．本番でしか動作確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：影響範囲を限定しながら実環境指標で安全性を確認できる。

イ：再発時の影響が大きい。

ウ：復旧性を下げる。

エ：事前品質確認を欠く。

総合解説：変更リスクは配布単位・監視・戻し方をセットで設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0090

非機能・問題分析 > セキュリティ・運用・品質 | 難易度：応用

二つの脆弱性が見つかった。AはCVSSが高いが外部から到達不能な検証環境、BはCVSSがやや低いインターネット公開サービスで実悪用情報がある。優先順位判断として適切なものはどれか。

ア．CVSSの数字だけで機械的に決める。

イ．スコアだけでなく到達可能性、資産重要度、悪用状況、代替対策を含む実リスクで優先する。

ウ．本番公開かどうかを考慮しない。

エ．悪用情報は無視する。

答え・解説

正答：イ

ア：環境文脈を無視する。

イ：実際の曝露と影響を含めてリスクベースで優先付けする。

ウ：攻撃可能性の差を無視する。

エ：緊急度判断に重要な情報である。

総合解説：セキュリティ対応は脆弱性の重大度とシステム文脈を統合して判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0091

非機能・問題分析 > セキュリティ・運用・品質 | 難易度：基礎

障害調査のためHTTPリクエストを全てログに出したところ、パスワードやカード番号まで記録されていた。改善として適切なのはどれか。

ア．機微情報も完全な平文で永久保存する。

イ．ログを公開共有フォルダへ置く。

ウ．調査に必要な項目だけを定義し、機微情報はマスキング・除外し、ログアクセスも制御する。

エ．障害調査のため認証情報を全員に配布する。

答え・解説

正答：ウ

ア：漏えい時の影響を大きくする。

イ：アクセス制御が不十分である。

ウ：可観測性と機密性を両立する必要がある。

エ：資格情報漏えいを拡大する。

総合解説：ログは多ければよいのではなく、必要性和情報分類に基づいて設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0092

非機能・問題分析 > セキュリティ・運用・品質 | 難易度：標準

異動した従業員に旧部署の承認権限が半年間残っていた。再発防止として最も適切なのはどれか。

ア．一度付与した権限は退職まで変更しない。

イ．全員へ同じ権限を付与する。

ウ．異動情報をシステム管理へ連携しない。

エ．人事イベントと権限変更を連携し、定期的なアクセスレビューで不要権限を検出・削除する。

答え・解説

正答：エ

ア：権限肥大化を招く。

イ：最小権限に反する。

ウ：更新漏れの原因を残す。

エ：ライフサイクルに沿った付与・変更・剥奪と棚卸しが必要である。

総合解説：アクセス制御は初期設計だけでなく運用プロセスまで要件化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0093

非機能・問題分析 > セキュリティ・運用・品質 | 難易度：標準

要件に「検索は十分速いこと」とだけ書かれ、開発側は3秒を合格、利用部門は1秒を期待して受入れ時に対立した。根本原因として最も適切なものはどれか。

- ア．性能要件と受入れ基準が測定条件を含めて定量化されていなかったこと。
- イ．利用部門が検索を利用したこと。
- ウ．DBを使用していること。
- エ．テスト結果を記録したこと。

答え・解説

正答：ア

ア：合否基準が曖昧で、双方の期待値が一致していない。
イ：通常の利用行為であり原因ではない。
ウ：DB利用自体は問題を意味しない。
エ：記録はむしろ品質管理に必要である。
総合解説：品質要求は測定可能・合意可能な形で定義する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0094

非機能・問題分析 > セキュリティ・運用・品質 | 難易度：基礎

一つの注文処理がAPI、在庫、決済、配送の4サービスを経由する。障害時に各ログの対応付けができず原因特定に時間がかかる。改善策として適切なものはどれか。

- ア．各サービスが独自の時刻形式だけを使いID連携しない。
- イ．リクエスト単位の相関ID/トレースIDを各サービスへ伝播し、時系列で追跡できるようにする。
- ウ．ログをサービスごとに完全削除する。
- エ．障害時は全サービスを再起動して調査を省略する。

答え・解説

正答：イ

ア：サービス間対応を特定できないままである。
イ：分散した処理を一つのトランザクションとして追跡できる。
ウ：証跡を失う。
エ：根本原因を特定せず再発しやすい。
総合解説：分散システムの運用性には横断的なトレーシングが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0095

非機能・問題分析 > セキュリティ・運用・品質 | 難易度：標準

重大障害の緊急修正で通常承認を待てない。変更管理として最も適切なものはどれか。

ア．緊急時は記録も承認も一切不要とする。

イ．誰でも本番へ直接変更できるようにする。

ウ．緊急変更用の権限・承認経路、実施記録、事後レビュー、ロールバック手順をあらかじめ定めて運用する。

エ．修正内容のテストを常に禁止する。

答え・解説

正答：ウ

ア：不正・誤変更の追跡ができない。

イ：権限統制を失う。

ウ：速度を確保しつつ最低限の統制と事後追跡を維持できる。

エ：可能な範囲の確認まで排除するのは不適切である。

総合解説：緊急変更は通常手順の単純な無効化ではなく、緊急用の統制プロセスを設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0096

データ・連携・移行 > データ設計・整合性 | 難易度：基礎

営業支援システムでは顧客を営業所ごとの連番で管理し、請求システムでは法人番号と拠点コードの組合せで管理している。新システムで顧客単位の売上分析を行うには、まず何を定義するのが適切か。

ア．両システムの顧客を一意に対応付ける識別ルールと変換表を定義する。

イ．営業所連番をそのまま全社共通の顧客番号とみなす。

ウ．法人番号だけで全ての顧客拠点を一意に識別する。

エ．分析時に担当者が名称を見て手作業で同一顧客か判断する。

答え・解説

正答：ア

ア：異なる識別体系を統合するには、同一実体を一意に対応付けられるルールが必要である。

イ：営業所ごとの連番は他営業所と衝突し得るため、そのまま全社キーにはできない。

ウ：法人番号は法人を識別しても拠点単位を区別できない場合がある。

エ：名称の手作業照合は再現性と整合性を確保できない。

総合解説：データ統合では、同じ業務実体を複数システム間でどう同定するかを先に確定し、その後に移行・集計方式を設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0097

データ・連携・移行 > データ設計・整合性 | 難易度：標準

商品単価は改定日ごとに変わる。過去の受注明細を再表示したとき、受注当時の単価根拠も確認できるようにしたい。データ設計として適切なものはどれか。

ア．商品マスターには常に最新単価だけを上書き保存する。

イ．商品単価の適用開始日・終了日を持つ履歴を保存し、受注日時に有効な単価を参照できるようにする。

ウ．受注明細の表示時点の最新単価を使って過去金額を再計算する。

エ．単価改定前のデータは毎回バックアップから復元して確認する。

答え・解説

正答：イ

ア：上書きだけでは改定前の単価根拠が失われる。

イ：有効期間付き履歴なら、過去時点の状態を再現できる。

ウ：最新単価で再計算すると過去の取引事実と一致しない。

エ：バックアップは履歴参照の通常方式としては不適切である。

総合解説：履歴を必要とする業務では、現在値だけでなく時点情報を持たせ、取引時点との整合を取る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0098

データ・連携・移行 > データ設計・整合性 | 難易度：標準

受注ヘッダーと受注明細が1対多で関連している。監査のため確定済み受注は保存しなければならない。顧客退会時の処理として最も適切なものはどれか。

ア．顧客行を物理削除し、関連する確定済み受注も連鎖削除する。

イ．受注明細だけ残して受注ヘッダーを削除する。

ウ．確定済み受注を残したまま、顧客の利用状態を無効化し、必要な参照関係を維持する。

エ．外部キー制約を常時無効化して削除を自由にする。

答え・解説

正答：ウ

ア：監査上保存すべき取引まで消える。

イ：ヘッダー欠落により明細の意味と参照整合性が失われる。

ウ：監査対象の取引記録を保持しつつ、退会状態を表現する設計が整合性を保つ。

エ：制約の恒常的無効化は不整合を招く。

総合解説：物理削除・論理無効化・履歴保持は、業務上の保存義務と参照関係を踏まえて選択する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0099

データ・連携・移行 > データ設計・整合性 | 難易度：基礎

注文合計額は各明細の数量×単価の合計で算出できる。更新頻度は高く、価格訂正もある。注文ヘッダーにも合計額を保持する案を採用する場合、最も重要な設計上の注意点はどれか。

- ア．ヘッダーの合計額だけを更新し、明細は後で合わせること。
- イ．価格訂正時は明細だけ変更し、合計額は月末に一括修正すること。
- ウ．合計額を保持すれば明細データは削除してよいこと。
- エ．明細更新と合計額更新を同一の整合性ルールで管理し、不一致を発生させないこと。

答え・解説

正答：エ

ア：一時的不一致が業務判断に影響する可能性がある。
イ：訂正後長期間不整合が残る。
ウ：明細は合計の根拠であり、要件なしに削除できない。
エ：冗長に保持した派生値は、元データとの同期が設計上の中心課題になる。
総合解説：性能目的で派生値を保持する場合は、更新原子性や再計算手段など整合維持策を合わせて設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0100

データ・連携・移行 > データ設計・整合性 | 難易度：応用

社員氏名・所属は人事システム、権限情報は認証基盤、案件担当情報は営業支援システムで管理している。営業支援システムに社員情報を同期する設計で、最も適切な考え方はどれか。

- ア．属性ごとに正本となるシステムを明確にし、同期先で勝手に正本属性を変更しない。
- イ．営業支援システムを全属性の正本とし、人事システムは参照しない。
- ウ．同期先で更新された氏名を人事システムへ常に自動上書きする。
- エ．同じ属性を各システムで独立更新し、差異は利用者に判断させる。

答え・解説

正答：ア

ア：責任ある管理元を属性単位で決めると、競合更新と不整合を抑えられる。
イ：既存の人事管理責任を無視している。
ウ：変更権限と承認経路が逆転する危険がある。
エ：複数正本は競合の原因になる。
総合解説：複数システムで同じ実体を扱う場合、System of Recordを明確にし、同期方向と更新責任を定義する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0101

データ・連携・移行 > データ設計・整合性 | 難易度：標準

旧システムの商品区分はA/B/Cの3区分、新システムでは用途別の6区分に細分化される。旧データを移行する際、旧区分Bだけでは新しい2区分のどちらか判定できない。適切な対応はどれか。

ア．旧Bを無条件に新区分の片方へ変換する。

イ．追加の判定情報を特定し、変換条件を定義した上で、判定不能データの扱いも決める。

ウ．旧区分コードをそのまま新システムへ登録する。

エ．判定不能なレコードを説明なしに移行対象外とする。

答え・解説

正答：イ

ア：誤分類を大量に生む可能性がある。

イ：情報不足を明示し、追加条件と例外処理を設計する必要がある。

ウ：新コード体系の要件に適合しない。

エ：欠落理由と業務影響を管理できない。

総合解説：コード体系の粒度が変わる移行では、一対一対応を前提にせず、必要な補助情報と例外処理を整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0102

データ・連携・移行 > データ設計・整合性 | 難易度：基礎

顧客の退会日について「未退会」と「退会済みだが旧データでは日付不明」を区別する必要がある。データ設計として適切なのはどれか。

ア．どちらも退会日NULLだけで表し、状態は文脈で推測する。

イ．退会日が不明な場合は一律にシステム移行日を設定する。

ウ．状態と日付の意味を明確に表現できる属性設計にし、未退会と日付不明を同じ値にしない。

エ．退会日が不明なレコードは全て未退会に変更する。

答え・解説

正答：ウ

ア：NULL一つでは二つの意味を判別できない。

イ：架空の日付を作ると事実性を損なう。

ウ：異なる業務意味を同じ表現へ潰さないことが重要である。

エ：実際に退会済みの顧客状態を誤る。

総合解説：欠損値の設計では「値がない理由」を区別し、後続処理が誤解しない表現を採用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0103

データ・連携・移行 > データ設計・整合性 | 難易度：標準

請求書には取引時点の顧客名称・住所を表示し、後日顧客マスターが変更されても再発行時の内容を変えない。適切な設計はどれか。

- ア．再発行のたびに最新の顧客マスターだけを参照する。
- イ．顧客マスターの更新を請求書保存期間中は禁止する。
- ウ．変更前の顧客情報は担当者の記憶で補う。
- エ．請求確定時に必要な名称・住所を請求データ側へ保存し、再発行ではその確定値を使う。

答え・解説

正答：エ

- ア：最新情報では過去文書の内容が変わる。
- イ：業務上必要なマスター更新を不当に妨げる。
- ウ：客観的な再現性がない。

エ：取引文書の再現性には、確定時点の値を保持する設計が適する。

総合解説：取引時点の事実を再現する必要がある属性は、マスター参照だけに依存せずスナップショットとして保持することがある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0104

データ・連携・移行 > データ設計・整合性 | 難易度：応用

移行前の名寄せで同一法人と思われる顧客レコードが2件見つかった。一方には未回収債権、もう一方には有効な契約がひも付く。最も適切な対応はどれか。

- ア．同一性を業務部門と確認し、関連する債権・契約・履歴の統合方針を決めてから顧客を統合する。
- イ．名称が似ているため自動的に片方を削除する。
- ウ．未回収債権のある方だけ残し、契約情報は破棄する。
- エ．両方を統合せず、新システムで同じ顧客番号を二つ発行する。

答え・解説

正答：ア

ア：名寄せは識別だけでなく関連取引への影響を確認して実施する必要がある。

イ：誤統合や取引欠落の危険がある。

ウ：契約の業務事実を失う。

エ：重複状態を解消できない。

総合解説：データクレンジングでは、単純な文字列一致より業務上の同一性と関連データの完全性を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0105

データ・連携・移行 > データ設計・整合性 | 難易度：標準

店舗別日次売上と商品別月次売上を結合して「店舗×商品×日」の利益を算出したい。しかし商品別月次売上には店舗情報がない。設計判断として適切なものはどれか。

ア．月次商品売上を各店舗・各日に均等配分すれば正確な値になる。

イ．必要な分析粒度を満たす元データが存在するか確認し、存在しなければ追加収集や要件見直しを行う。

ウ．店舗情報がなくても主キーを追加すれば事実上の粒度は細くなる。

エ．二つの表の行数を同じにすれば粒度は一致する。

答え・解説

正答：イ

ア：均等配分は仮定であり実績値ではない。

イ：分析粒度に必要な次元が欠けている場合、キー追加だけでは事実情報を復元できない。

ウ：識別子を増やしても失われた業務情報は生成されない。

エ：行数一致は意味上の粒度一致を保証しない。

総合解説：データ設計では、集計値の粒度とディメンションを確認し、必要な事実データが本当に取得可能かを検証する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0106

データ・連携・移行 > API・外部システム連携 | 難易度：基礎

決済API呼出し後に自社側でタイムアウトしたが、決済事業者側では処理済みかもしれない。利用者が再実行しても二重決済を防ぎたい。最も適切な設計はどれか。

ア．タイムアウトしたら必ず新しい注文番号で即時再送する。

イ．レスポンスが返るまで同じHTTP接続を無期限に維持する。

ウ．注文単位の一意的な冪等キーを付け、同じキーの再送を同一処理として扱えるようにする。

エ．決済結果を確認せず、画面上だけ成功表示にする。

答え・解説

正答：ウ

ア：新しい識別子は別処理と認識され二重決済の危険がある。

イ：ネットワーク障害下で無期限接続は成立しない。

ウ：再送可能な外部処理では、同一業務要求を識別して重複実行を抑止する仕組みが有効である。

エ：実状態との不整合を拡大する。

総合解説：外部API連携では通信失敗と業務処理失敗を分け、再送時の冪等性と結果照会を設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0107

データ・連携・移行 > API・外部システム連携 | 難易度：標準

注文受付APIが在庫照会・配送見積・ポイント照会の3外部サービスを同期呼出ししている。ポイントサービスの遅延だけで注文受付全体が停止する事象が増えた。対策として最も適切なのはどれか。

ア．全外部サービスのタイムアウトを無期限にする。

イ．ポイントサービスが遅いときは在庫DBを再起動する。

ウ．全ての外部呼出しを同じ1トランザクションに強制参加させる。

エ．ポイント照会のタイムアウトやフォールバックを設け、注文継続可否を業務要件に基づいて切り分ける。

答え・解説

正答：エ

ア：待ち続けると資源枯渇や遅延拡大を招く。

イ：原因と無関係な再起動である。

ウ：異種外部サービス間の強結合が増す。

エ：外部依存の重要度に応じて障害を局所化し、不要な連鎖停止を防ぐ。

総合解説：連携方式は、機能上の依存だけでなく可用性・タイムアウト・代替処理まで含めて設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0108

データ・連携・移行 > API・外部システム連携 | 難易度：標準

取引先APIのv1廃止に伴いv2へ移行する。v2では必須項目とレスポンス構造が変わるが、自社の複数システムがv1形式に依存している。適切な進め方はどれか。

ア．影響範囲を特定し、変換層や段階移行期間を設けて各利用システムを計画的にv2へ切り替える。

イ．外部APIがv2になった日に全利用システムを無検証で同時切替える。

ウ．v1とv2の項目差分を無視し、URLだけ変更する。

エ．利用システムごとに独自解釈でv2項目を割り当てる。

答え・解説

正答：ア

ア：契約変更の影響を分析し、互換層や移行計画で依存システムの変更を制御する。

イ：同時無検証切替えは障害時の切戻しと原因切分けを難しくする。

ウ：データ契約差分により誤処理を起こす。

エ：変換ルールがばらばらになり整合性を失う。

総合解説：APIはインタフェース契約であり、仕様変更では利用者・データ変換・テスト・移行を一体で扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0109

データ・連携・移行 > API・外部システム連携 | 難易度：基礎

受注状態を「受付→与信済→出荷済」の順で更新するイベント連携を採用した。ネットワーク遅延で「出荷済」イベントが「与信済」より先に届く可能性がある。必要な設計はどれか。

ア．到着順を常に正しい業務順序とみなす。

イ．業務上順序が必要なら、注文ごとの順序情報や状態遷移検証を用いて不正な先行更新を防ぐ。

ウ．全注文のイベントを一つの巨大メッセージにまとめる。

エ．順序が逆転したら過去イベントを全て破棄する。

答え・解説

正答：イ

ア：遅延・再送で誤状態になる。

イ：非同期配信では配送順と業務順が一致しない可能性を考慮し、状態遷移を守る必要がある。

ウ：全体を強結合にし処理効率や可用性を損なう。

エ：必要な状態更新まで失う。

総合解説：イベント連携では少なくとも重複、順序、遅延、再送の扱いを業務単位で定義する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0110

データ・連携・移行 > API・外部システム連携 | 難易度：応用

配送事業者APIへ出荷依頼を送る。配送には宛先氏名・住所・電話番号が必要だが、自社の会員ランクや購入履歴は不要である。設計として適切なのはどれか。

ア．将来使う可能性があるため顧客マスター全項目を送る。

イ．API仕様に項目欄があれば業務用途に関係なく全て埋める。

ウ．配送業務に必要な項目だけを送信し、不要な会員属性や購入履歴は連携対象から除外する。

エ．配送事業者へDB参照権限を与え必要な情報を自由に取得させる。

答え・解説

正答：ウ

ア：不要データの提供範囲が拡大する。

イ：項目の存在と送信必要性は同義ではない。

ウ：外部連携では目的に必要なデータへ限定することがリスク低減につながる。

エ：アクセス範囲が過大で統制できない。

総合解説：連携データは業務目的・契約・セキュリティ要件に照らし、必要最小限の範囲を設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0111

データ・連携・移行 > API・外部システム連携 | 難易度：標準

在庫引当完了を数秒以内に後続工程へ通知したい。状態変化は1日数十万件あり、外部システムへの毎秒ポーリングは負荷が高い。適切な方式はどれか。

- ア．後続側が全注文を毎秒全件検索する。
- イ．1日1回のバッチだけで通知する。
- ウ．状態変化を通知せず、利用者が画面を再読込した時だけ処理する。
- エ．状態変化時にイベントを発行し、後続側が購読する方式を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：不要な照会負荷が大きい。
イ：数秒以内という要求を満たせない。
ウ：後続工程の自動連携にならない。
エ：高頻度かつ低遅延の通知要求にはイベント駆動が適ししやすい。
総合解説：連携方式はデータ量、許容遅延、障害時処理、再送などを比較して選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0112

データ・連携・移行 > API・外部システム連携 | 難易度：基礎

注文APIから配送API、通知APIへ処理が連鎖する。利用者から「注文が完了しない」と問い合わせがあった際、複数システムのログを一連の処理として追跡したい。最も有効な設計はどれか。

- ア．処理をまたいで引き継ぐ相関IDを付与し、各システムのログへ記録する。
- イ．各システムでログを保存せず画面メッセージだけ残す。
- ウ．全利用者の処理に同じ固定IDを使う。
- エ．障害発生後に担当者が任意のIDを手入力する。

答え・解説

正答：ア

ア：共通の相関IDがあれば分散したログを同一要求単位で結び付けられる。
イ：事後調査に必要な証跡がない。
ウ：複数処理を識別できない。
エ：発生時点の処理との確実な対応付けができない。
総合解説：分散連携では、業務要求を端から端まで追跡できる識別情報を設計しておく。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0113 データ・連携・移行 > API・外部システム連携 | 難易度：標準

税率照会APIは契約上1分600回まで。月末処理では5分間に1万件の照会要求が発生する。税率は同一日・同一区分なら同じ値である。最も適切な対策はどれか。

ア．1万件を同時に送信し、429応答だけ再送し続ける。

イ．同一条件の結果を適切にキャッシュし、必要に応じてキューで平準化して契約上限を超えないようにする。

ウ．レート制限を無視するよう外部APIの設定を自社から変更する。

エ．照会に失敗したレコードは税率0として確定する。

答え・解説 正答：イ

ア：大量再送はさらに制限を悪化させる。

イ：再利用可能な結果を使い、要求を平準化すれば上限内で処理しやすい。

ウ：外部事業者の契約制御を自社から変更できる前提はない。

エ：誤った業務結果を確定してしまう。

総合解説：外部サービス制約はシステム要件の一部として扱い、キャッシュ、キュー、再送間隔、失敗時処理を設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0114 データ・連携・移行 > API・外部システム連携 | 難易度：応用

注文確定時に自社DB更新後、外部配送予約APIを呼ぶ。外部予約に失敗しても自社DBの更新を直接ロールバックできない構成である。適切な設計はどれか。

ア．外部APIも自社DBのローカルトランザクションへ必ず参加させる。

イ．配送予約失敗を無視して注文を出荷済みにする。

ウ．業務状態を「配送予約待ち・失敗」などで管理し、再試行や取消しなどの補償処理を定義する。

エ．不整合が起きるたびにDBをバックアップ時点へ戻す。

答え・解説 正答：ウ

ア：外部APIが同一DBトランザクションに参加できるとは限らない。

イ：実際の配送状態と一致しない。

ウ：分散した独立システムでは、業務状態と補償処理で整合を回復する設計が現実的である。

エ：他の正常取引まで巻き戻す危険がある。

総合解説：外部連携をまたぐ更新では、原子的コミットだけに依存せず、再試行・補償・監視を含めた整合モデルを定義する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0115

データ・連携・移行 > API・外部システム連携 | 難易度：標準

会計システムへ売上仕訳をリアルタイム送信するが、会計システムは月次保守で2時間停止する。売上受付自体は継続し、復旧後に漏れなく連携したい。適切な方式はどれか。

- ア．会計停止中の売上受付を全て破棄する。
- イ．送信失敗した売上はメモリだけに保持する。
- ウ．復旧後に担当者が記憶を頼りに仕訳を再入力する。
- エ．未送信データを永続キュー等に保持し、再送済み判定と順序・重複対策を伴って復旧後に送信する。

答え・解説

正答：エ

- ア：業務データを欠落させる。
 - イ：プロセス停止で失われる可能性がある。
 - ウ：完全性・再現性がない。
 - エ：一時停止を吸収する永続的な保留機構と再送管理が必要である。
- 総合解説：非同期化で障害を分離する場合は、蓄積の耐久性と再送時の重複・順序管理まで設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0116

データ・連携・移行 > 移行・テスト・切替え | 難易度：基礎

本番切替え可能時間は6時間で、データ移行・検証・業務確認をその時間内に終える必要がある。リハーサルで最も重視すべき内容はどれか。

- ア．本番相当量のデータと手順で所要時間を計測し、検証・切戻しを含めて時間内に完了できるか確認する。
- イ．少量サンプルだけで変換プログラムが起動することを確認する。
- ウ．本番作業者を参加させず開発者だけで手順を読む。
- エ．移行後の業務確認を省きコピー時間だけを測る。

答え・解説

正答：ア

- ア：切替え時間制約を満たすには、本番条件に近い総作業時間の実測が必要である。
 - イ：大量データ時の性能や例外処理を確認できない。
 - ウ：役割分担・手順誤解を検出できない。
 - エ：業務利用可能性まで含む切替え完了条件を測れない。
- 総合解説：移行リハーサルはプログラム単体確認ではなく、データ量、手順、担当者、検証、切戻しを含む本番模擬として行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0117 データ・連携・移行 > 移行・テスト・切替え | 難易度：標準

初回コピー後も旧システムで取引を継続し、切替え直前に差分だけ新システムへ反映する。差分抽出を確実にするため重要なものはどれか。

ア．担当者の記憶で変更されたレコードを選ぶ。

イ．初回コピー時点を特定できる更新時刻や変更履歴等を用い、どの変更を差分対象とするか基準を固定する。

ウ．初回コピー後は更新日時を全件同じ値に書き換える。

エ．差分判定をせず全件を無条件に追加登録する。

答え・解説 正答：イ

ア：漏れ・重複を防げない。

イ：差分の境界を客観的に再現できる情報が必要である。

ウ：変更検知に使う情報を失う。

エ：重複登録や競合を招く。

総合解説：差分移行では、変更捕捉の基準、再実行時の扱い、更新競合を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0118 データ・連携・移行 > 移行・テスト・切替え | 難易度：標準

旧DBと新DBで顧客件数が10万件で一致した。これだけで移行成功と判定してよいか。

ア．件数が一致すれば内容も必ず一致するので十分である。

イ．ランダムに1件だけ目視できれば全件の正しさを保証できる。

ウ．件数に加え、キー重複、必須項目、金額集計、コード変換、参照関係など業務上重要な整合性も検証する。

エ．新DBが起動すれば移行データの検証は不要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：件数は内容の一致を保証しない。

イ：1件確認では全体の品質を評価できない。

ウ：同じ件数でも誤変換・入替わり・値欠落は起こり得るため、多面的な照合が必要である。

エ：システム起動とデータ正しさは別問題である。

総合解説：移行完了基準は件数だけでなく、重要項目・集計値・関連整合性などを事前に定義する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0119 データ・連携・移行 > 移行・テスト・切替え | 難易度：基礎

在庫システム切替え中に旧・新の双方で在庫更新を許すと差異が発生する。業務停止は最大30分だけ許容される。適切な計画はどれか。

ア：切替え中も両システムで自由に更新し、差異は後日推測して修正する。

イ：全業務を丸一日停止し、許容停止時間を無視する。

ウ：旧システムだけ停止し、新システムの整合確認は行わない。

エ：更新凍結の開始・終了条件と対象機能を決め、30分以内に差分反映と確認を完了できる手順を設計する。

答え・解説 正答：エ

ア：在庫不整合の原因になる。

イ：業務要件に違反する。

ウ：切替え完了条件を確認できない。

エ：二重更新を防ぎつつ停止制約を守る具体的な凍結計画が必要である。

総合解説：切替えでは、更新権限をどこへ置くか、停止時間、差分反映、再開判定を一連の手順として設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0120 データ・連携・移行 > 移行・テスト・切替え | 難易度：応用

本番切替え後に重大障害が起きた場合、旧システムへ戻す計画を用意する。切戻し計画で最も重要な事項はどれか。

ア：切戻しを決定する客観的条件、決定期限、責任者、切替え後に発生したデータの扱いを事前に定める。

イ：障害が起きてから関係者で条件を考える。

ウ：新システムへ入力された取引は全て無条件に破棄する。

エ：切戻し責任者を置かず、最初に気付いた担当者が判断する。

答え・解説 正答：ア

ア：切戻し可能な時間窓とデータ整合を守るため、判断基準と責任を事前に固定する必要がある。

イ：意思決定が遅れ切戻し不能になる可能性がある。

ウ：取引消失は許容できない場合が多い。

エ：統制された判断にならない。

総合解説：切戻しは技術手順だけでなく、判定条件・期限・承認権限・データ同期を含めて計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0121

データ・連携・移行 > 移行・テスト・切替え | 難易度：標準

新しい受注システムの受入れテストで、開発チームが作成した単体テストをそのまま再実施する案が出た。業務部門の受入れ確認として不足している点はどれか。

ア．プログラム内部の全分岐を100%通過していない点だけが問題である。

イ．実際の業務シナリオと受入れ基準に基づき、業務要件を満たすかを利用部門が確認する観点が不足している。

ウ．開発者が実施すれば利用部門の確認は不要である。

エ．受入れテストではデータや権限の確認をしてはいけない。

答え・解説

正答：イ

ア：内部網羅率だけでは業務利用可能性を判断できない。

イ：受入れは利用目的・業務要件への適合を確認する工程である。

ウ：受入れ主体の確認を欠く。

エ：実運用に必要なデータ・権限も重要な確認対象である。

総合解説：テストレベルごとに目的が異なるため、受入れテストは業務プロセスと受入れ条件へ結び付ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0122

データ・連携・移行 > 移行・テスト・切替え | 難易度：基礎

データ変換時に必須コードへ対応できない旧レコードが0.3%存在する。適切な扱いはどれか。

ア．変換できない値は全て空欄で登録し、警告も残さない。

イ．該当レコードを自動削除し件数だけ合わせる。

ウ．例外を一覧化し、業務担当者による補正・除外判断とその根拠を記録した上で再検証する。

エ．任意の有効コードをランダムに割り当てる。

答え・解説

正答：ウ

ア：不完全データを検知できない。

イ：業務事実を失う。

ウ：例外の所在、対応、承認を追跡可能にして品質を管理する。

エ：誤分類を生む。

総合解説：移行では正常系だけでなく変換不能・不正確・重複など例外処理と承認手順を定義する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0123

データ・連携・移行 > 移行・テスト・切替え | 難易度：標準

給与計算システムを1か月並行稼働し、旧・新システムで同じ入力から計算結果を比較する。並行稼働の目的として最も適切なものはどれか。

- ア．同じ給与を旧・新の双方から二重に振り込む。
- イ．差異が出て旧システム結果を確認せず新結果を正とする。
- ウ．本番入力ではなく架空の1件だけで運用負荷を測る。
- エ．本番業務条件で新旧結果の差異を検出し、新システムの妥当性を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：実支払を二重化する目的ではない。
イ：差異分析を放棄している。
ウ：本番相当性を確認できない。
エ：同一業務を新旧で比較することで、計算・データ・運用上の差異を発見できる。
総合解説：並行稼働はコストが高いが、業務影響が大きいシステムで新旧結果の比較確認に利用できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0124

データ・連携・移行 > 移行・テスト・切替え | 難易度：応用

全国100店舗のPOSを一斉切替える案と、地域ごとに10店舗ずつ段階切替える案を比較する。段階切替の評価として適切なものはどれか。

- ア．障害影響を限定し学習結果を後続へ反映しやすい一方、新旧併存期間の連携・運用が複雑になる。
- イ．段階切替えなら新旧データ連携は一切不要になる。
- ウ．段階切替えでは障害が絶対に発生しない。
- エ．一斉切替えより常に総コストが低くなる。

答え・解説

正答：ア

ア：段階方式にはリスク限定という利点と、併存管理という追加課題がある。
イ：併存中はむしろ連携が必要になる場合がある。
ウ：障害リスクをゼロにはできない。
エ：期間延長や二重運用でコストが増える場合もある。
総合解説：切替え方式は影響範囲、停止時間、新旧併存、データ同期、教育・支援など複数軸で比較する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0125

データ・連携・移行 > 移行・テスト・切替え | 難易度：標準

新システム切替え後1週間を安定化期間とする。終了判定として最も適切なものはどれか。

ア．1週間経過したという日付だけで自動的に終了する。

イ．重大障害件数、処理遅延、未解決データ不整合、業務問い合わせなど事前に定めた基準を満たすことを確認する。

ウ．開発者が忙しくなった時点で終了する。

エ．利用者からの問い合わせ件数を記録しない。

答え・解説

正答：イ

ア：問題が残ったまま通常運用へ移る可能性がある。

イ：期間だけでなく、サービス・業務が安定したことを測る基準が必要である。

ウ：客観的な終了条件ではない。

エ：重要な安定性指標を失う。

総合解説：切替え後は監視・問い合わせ・データ品質などを用いて安定化を評価し、通常運用への移行を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0126

記述答案 > 問題文から根拠を抽出する | 難易度：基礎

事例には「顧客情報取込みは毎日2時に1回だけ実施する」とあり、設問は「日中に追加された顧客が直ちに検索できない理由」を問うている。答案の根拠として最も直接的なのはどれか。

ア．検索画面の背景色が部署ごとに異なること。

イ．顧客DBの製品名が本文に記載されていないこと。

ウ．顧客情報の取込みが1日1回だけで、日中の追加分は次回取込みまで反映されないこと。

エ．担当者が顧客登録研修を受けていること。

答え・解説

正答：ウ

ア：検索反映遅延とは無関係である。

イ：製品名の有無は取込み周期の問題を説明しない。

ウ：設問で問われた現象と因果的に直結する本文条件を使う。

エ：研修受講もデータ反映遅延の原因ではない。

総合解説：B-1答案では、本文にある多くの情報から、設問の主語・現象・条件に直接つながる記述を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0127

記述答案 > 問題文から根拠を抽出する | 難易度：標準

本文では「過去5年間に取引がなく、かつ未回収債権がない顧客だけを休眠扱いにする」と定義されている。設問が休眠対象を問う場合、適切な答案はどれか。

ア．過去5年間に取引がない顧客。
イ．未回収債権がない顧客。
ウ．最終取引日が古いと担当者が感じた顧客。
エ．過去5年間に取引がなく、未回収債権もない顧客。

答え・解説

正答：エ

ア：債権条件が欠けて範囲が広すぎる。
イ：取引期間条件が欠けて範囲が広すぎる。
ウ：本文の客観条件ではない。
エ：AND条件の両方を含めて初めて定義を満たす。
総合解説：採点講評でも条件の一部を落とすと仕様誤解につながるため、必要十分な限定を答案に残すことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0128

記述答案 > 問題文から根拠を抽出する | 難易度：標準

本文に「契約単価は年度途中では変更できない」という社内規程があり、パッケージ標準機能は注文時に任意単価へ変更できる。設問で標準機能を制限する理由を問われた。最も適切な答案はどれか。

ア．注文時の任意単価変更を許すと、年度途中で契約単価を変更できない社内規程に反するから。
イ．パッケージ製品は一般に使いにくいから。
ウ．利用者が単価入力を面倒だと感じるから。
エ．システムアーキテクトは標準機能を使ってはいけないから。

答え・解説

正答：ア

ア：本文の規程と標準機能の挙動を因果関係で結んでいる。
イ：本文にない主観評価である。
ウ：規程違反という本質的理由ではない。
エ：標準機能利用を一般に禁止する原則はない。
総合解説：「なぜ問題か」を問う設問では、本文の制約と対象機能がどう衝突するかを明示する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0129

記述答案 > 問題文から根拠を抽出する | 難易度：基礎

本文に、所属組織は人事システム、商談金額は営業支援システム、取引実績は会計システムにあると記載される。設問が「承認者判定に追加連携が必要な理由」を問うており、承認者は所属組織で決まる。根拠はどれか。

ア．商談金額が営業支援システムにあること。

イ．承認者判定に必要な所属組織が人事システムにしか存在しないこと。

ウ．取引実績が会計システムにあること。

エ．三つのシステムが同じサーバ室にないこと。

答え・解説

正答：イ

ア：承認者決定の属性ではない。

イ：必要属性とその所在を直接対応付けている。

ウ：今回の承認規則に直接使われない。

エ：物理配置は設問の理由ではない。

総合解説：複数システムが登場する長文では、どの情報がどこにあるかを整理して答案の主語を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0130

記述答案 > 問題文から根拠を抽出する | 難易度：応用

状態遷移表では、申請は「作成中→申請済→承認済→実行済」と進み、取消しは「申請済」の間だけ可能である。設問が取消し可能条件を問う場合、適切な答案はどれか。

ア．申請が作成中又は実行済であること。

イ．承認者がログインしていないこと。

ウ．申請が申請済で、まだ承認済へ遷移していないこと。

エ．申請金額が平均額以下であること。

答え・解説

正答：ウ

ア：状態遷移表の条件と矛盾する。

イ：ログイン状態は取消し可能状態の定義ではない。

ウ：図表に示された取消し可能な状態を正確に表している。

エ：金額条件は示されていない。

総合解説：図・表・状態遷移に明示された条件も本文と同等の根拠として扱い、勝手な条件を加えない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0131

記述答案 > 問題文から根拠を抽出する | 難易度：標準

本文には「外部在庫は15分ごとに同期」「注文確定時には最新在庫を確認」「画面表示時の在庫は参考値」とある。設問が注文確定時に外部照会する理由を問う場合、最適な根拠はどれか。

ア．15分という数字がシステムで扱いやすいから。
イ．画面表示を高速化したいからだけである。
ウ．外部在庫システムの画面デザインが異なるから。
エ．画面の在庫は15分周期の参考値で、注文確定時点の最新在庫とは限らないから。

答え・解説

正答：エ

ア：本文にない理由である。
イ：表示性能だけでは確定時照会の必要性を説明しきれない。
ウ：在庫の鮮度とは無関係である。
エ：同期周期と「確定時は最新」という要求の差を説明している。
総合解説：時間条件を含む事例では、データの鮮度と処理時点を結び付けて根拠を表現する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0132

記述答案 > 問題文から根拠を抽出する | 難易度：基礎

設問は「新システムが店舗コードを保持する理由」を問うている。本文には店舗コードで売上を集計し、店舗責任者が日次実績を確認するとある。答案として適切なのはどれか。

ア．新システムで店舗別の日次売上を集計し、店舗責任者が確認できるようにするため。
イ．売上を集計するため。
ウ．責任者が確認するため。
エ．店舗コードが一般的なデータ項目だから。

答え・解説

正答：ア

ア：対象システム・集計単位・利用目的まで含み、何のための項目が明確である。
イ：何をどの単位で集計するか不足している。
ウ：何を確認するか不足している。
エ：本文の業務目的を示していない。
総合解説：短い答案でも、曖昧な代名詞や目的語不足を避け、設問の主語と本文根拠が対応する形にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0133

記述答案 > 問題文から根拠を抽出する | 難易度：標準

本文に「障害時は代替センタへ切り替える」「切替え目標は30分以内」とあるが、複製方式は記載されていない。設問で復旧目標を問われたとき、答案に含めるべき内容はどれか。

ア．同期レプリケーションでゼロ秒以内に切り替えること。
イ．障害発生後30分以内に代替センタへ切り替えること。
ウ．必ず二つのクラウド事業者を使うこと。
エ．データベース製品の標準レプリケーションを採用すること。

答え・解説

正答：イ

ア：複製方式もゼロ秒も本文からは導けない。
イ：本文に明示された復旧時間と切替え先だけを答えている。
ウ：マルチクラウド要件は記載されていない。
エ：製品・方式を推測している。
総合解説：記述答案では知識を披露するために本文にない設計を足すのではなく、問われた事項を本文根拠から導く。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0134

記述答案 > 問題文から根拠を抽出する | 難易度：応用

本文には、取引先との契約で応答は3秒以内、サーバCPU使用率は通常40%、開発言語はJava、夜間バックアップを実施、とある。設問は「性能試験で3秒を合否基準にする理由」を問う。最も直接的な根拠はどれか。

ア．CPU使用率が通常40%であること。
イ．開発言語がJavaであること。
ウ．取引先との契約で応答時間3秒以内が要求されていること。
エ．夜間バックアップを実施していること。

答え・解説

正答：ウ

ア：負荷状況の参考にはなるが3秒という合否値の根拠ではない。
イ：言語選択と応答目標の値は直接関係しない。
ウ：性能試験の合否値そのものを規定する契約要求が最も直接的である。
エ：バックアップ運用とオンライン応答時間は別論点である。
総合解説：長文中に関連情報が多くても、設問で問われた数値・判断を直接規定する根拠を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0135

記述答案 > 原因・理由・対策を対応させる | 難易度：基礎

月末だけ検索応答が10秒を超える。ログではDB接続待ちが増え、接続プールは上限50、月末同時要求は通常の4倍である。原因として最も妥当なのはどれか。

- ア．検索画面の文字サイズが小さいこと。
- イ．バックアップ媒体の保管場所が遠いこと。
- ウ．利用者のパスワード有効期限が90日であること。
- エ．同時要求増加に対してDB接続プールが不足し、接続待ちが発生していること。

答え・解説

正答：エ

ア：応答時間の技術的原因にならない。
イ：オンライン検索の接続待ちとは関係しない。
ウ：DB接続待ちを説明しない。
エ：ログ上の待ち増加と同時要求・上限値が因果的に整合する。
総合解説：原因答案は、観測事象を言い換えるだけでなく、本文・ログの因果関係を示す具体的要因にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0136

記述答案 > 原因・理由・対策を対応させる | 難易度：標準

外部API障害時に呼出しスレッドが長時間待機し、Webサーバのスレッドが枯渇して全機能が停止した。対策として最も直接的なのはどれか。

- ア．外部APIに適切なタイムアウトと失敗時処理を設定し、必要に応じて隔離・非同期化する。
- イ．Web画面の画像サイズだけを小さくする。
- ウ．DBの全テーブルに新しい列を追加する。
- エ．外部API障害中でも無期限に応答を待つ。

答え・解説

正答：ア

ア：原因である長時間待機を制御し、障害伝播を抑える対策である。
イ：スレッド枯渇の原因に作用しない。
ウ：外部待機問題とは無関係である。
エ：原因をさらに悪化させる。
総合解説：対策は原因に作用する必要がある。症状だけを隠す案や無関係な改善を選ばない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0137

記述答案 > 原因・理由・対策を対応させる | 難易度：標準

設問は「なぜ注文確定時に在庫を再照会するのか」と問う。本文では一覧画面の在庫は15分ごとの同期値で、欠品注文を禁止するとある。適切な理由はどれか。

- ア．一覧画面を使わないようにするため。
- イ．一覧表示後に在庫が変動する可能性があり、欠品注文を防ぐには確定時点の在庫確認が必要だから。
- ウ．外部在庫APIのアクセス回数を増やすため。
- エ．注文画面の操作手順を長くするため。

答え・解説

正答：イ

ア：再照会の目的ではない。

イ：データ鮮度の差と欠品禁止という業務目的を因果関係で結んでいる。

ウ：アクセス増加そのものは目的にならない。

エ：業務要件と逆方向である。

総合解説：理由を問われたら「本文条件のため、要求を満たすには対象処理が必要」という因果を明示する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0138

記述答案 > 原因・理由・対策を対応させる | 難易度：基礎

バッチ処理が予定の2倍かかった。記録では入力件数が前月比2倍、1件当たり処理時間は前月とほぼ同じ、CPU・I/O待ちも大きな変化がない。主要因はどれか。

- ア．CPU障害が必ず発生したこと。
- イ．I/O性能が半分になったこと。
- ウ．1件当たり性能は変わらず入力件数が2倍になったこと。
- エ．処理ロジックが無条件に低速化したこと。

答え・解説

正答：ウ

ア：CPU指標に根拠がない。

イ：I/O待ちに変化がないため裏付けがない。

ウ：処理量の増加と総時間の増加が比例し、単位性能は変わっていない。

エ：1件当たり時間が同じという記録と矛盾する。

総合解説：性能問題では、総量・単位処理時間・資源指標を分けて読み、本文で裏付けられる主要因を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0139

記述答案 > 原因・理由・対策を対応させる | 難易度：応用

顧客住所をCRMと請求システムの双方で編集できるため、月末に住所差異が多数発生した。原因と対策の組合せとして最も適切なものはどれか。

- ア．原因は画面色が違うこと。対策は両画面を同じ色にすること。
- イ．原因は住所が文字列であること。対策は住所項目を削除すること。
- ウ．原因は月末であること。対策は月末の利用を禁止すること。
- エ．原因は更新責任が二重化していること。対策は住所の正本を決め、他方は連携更新とすること。

答え・解説

正答：エ

ア：見た目の統一ではデータ更新競合を解決しない。
イ：住所は業務上必要であり削除は解決にならない。
ウ：発生日を避けても根本原因は残る。
エ：同一属性を複数系統で独立更新する構造が差異を生み、更新責任の一本化が原因へ作用する。
総合解説：原因・対策問題では、対策が原因メカニズムを断つか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0140

記述答案 > 原因・理由・対策を対応させる | 難易度：標準

メッセージ再送で同じ請求が2回登録された。ログでは同一業務IDのメッセージが2回到着し、受信側に重複判定がない。整理として適切なものはどれか。

- ア．現象は請求重複、原因は再送を重複判定せず処理したこと、対策は業務IDで幂等処理すること。
- イ．現象は再送、原因は請求重複、対策はログを削除すること。
- ウ．現象は業務ID、原因はログ保存、対策は再送回数を無限にすること。
- エ．現象・原因・対策は全て「通信障害」とだけ書けばよい。

答え・解説

正答：ア

ア：観測結果、発生メカニズム、再発防止策をそれぞれ正しく対応させている。
イ：因果関係が逆で、ログ削除も再発防止にならない。
ウ：要素の役割を取り違えている。
エ：具体性がなく対策も示していない。
総合解説：B-1答案では「何が起きたか」「なぜ起きたか」「どう防ぐか」を分けると、設問要求へ対応しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0141

記述答案 > 原因・理由・対策を対応させる | 難易度：標準

承認済み申請は監査上、承認時点の内容を後から変更不可とする。承認後に修正要求が出た場合の設計として最も適切なのはどれか。

- ア．承認済みレコードを直接上書きし旧値を残さない。
- イ．承認済み記録は保持し、取消し・再申請など監査証跡を残す手続で修正する。
- ウ．DB管理者だけが履歴なしで変更する。
- エ．監査対応をやめて自由編集を許可する。

答え・解説

正答：イ

ア：承認時点の証跡が消える。
イ：変更不可という業務理由を守りながら、必要な訂正を履歴付き手続で実現する。
ウ：権限者による変更でも履歴がなければ監査要件を満たさない。
エ：業務要件そのものを放棄している。
総合解説：設計対策は、本文に示された業務上の理由・統制目的を保った形で選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0142

記述答案 > 原因・理由・対策を対応させる | 難易度：応用

毎週月曜にファイル連携が失敗する。調査すると送信側はUTF-8、受信側は月曜バッチだけShift_JIS前提の別処理を通り、特定文字を含むデータで変換エラーになる。恒久対策として適切なのはどれか。

- ア．月曜だけエラー行を手作業で削除する。
- イ．特定文字を入力した利用者を毎回注意する。
- ウ．連携文字コードの契約を統一し、月曜バッチも同じ変換・検証ルールに合わせる。
- エ．失敗時に同じファイルを変換せず100回再送する。

答え・解説

正答：ウ

ア：データ欠落を伴う暫定対応である。
イ：入力制限へ責任転嫁し根本原因が残る。
ウ：不一致という根本原因をインタフェース仕様側で解消する。
エ：同じ条件では同じエラーを繰り返す。
総合解説：恒久対策は再発メカニズムを除去するものであり、手作業の回避策と区別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0143

記述答案 > 字数制限・設問要求への適合 | 難易度：基礎

設問が「機能名を20字以内で答えよ」としている。本文から必要なのは、複数店舗の売上を日次で集計する機能である。最も適切な答案はどれか。

- ア．売上を集計して管理者が確認し経営判断に活用できる便利な機能
- イ．システムの性能を改善する機能
- ウ．店舗
- エ．店舗別日次売上集計機能

答え・解説

正答：エ

ア：機能名ではなく説明文で、字数超過もしやすい。
イ：本文で求められた機能を特定していない。
ウ：対象だけで処理内容がない。
エ：問われたものが機能名なので、簡潔な名詞句で機能を特定している。
総合解説：字数制限がある記述では、設問の品詞要求（機能名・理由・項目名など）に合わせ、必要な識別情報を残して短くする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0144

記述答案 > 字数制限・設問要求への適合 | 難易度：標準

設問が「理由を30字以内で答えよ」。本文では、顧客情報の同期は1日1回なので、日中追加された顧客が新システムに未反映となる。適切な答案はどれか。

- ア．顧客情報の取込みが1日1回で即時反映されないから
- イ．顧客情報についてはいろいろな事情があり、日中に追加される場合もあるため
- ウ．同期
- エ．新システムは高性能ではないから

答え・解説

正答：ア

ア：本文条件と結果を因果関係で短く表現している。
イ：冗長で具体的原因が曖昧である。
ウ：理由として文が成立せず、何が問題か不明である。
エ：本文にない推測である。
総合解説：短文答案は、修飾を削る一方で「原因となる条件」と「問われた結果」の対応を残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0145

記述答案 > 字数制限・設問要求への適合 | 難易度：標準

設問が「改善策を二つ、それぞれ20字以内で答えよ」としている。本文から有効な改善策が三つ見つかった場合、答案作成方針として適切なのはどれか。

ア．三つ全てを書けば情報量が多いので必ず高得点になる。

イ．設問との対応が最も明確な二つを選び、それぞれ独立して20字以内で記述する。

ウ．二つを一文に混ぜ、どちらがどの欄か分からなくする。

エ．設問数を無視し、一つだけ詳しく100字で書く。

答え・解説

正答：イ

ア：余分な答案が評価を曖昧にする場合がある。

イ：設問が指定した解答数・欄・字数を守ることが採点可能な答案につながる。

ウ：設問との対応が不明瞭になる。

エ：指定された二つの要求を満たさない。

総合解説：記述試験では、内容だけでなく「いくつ・何を・何字で」という設問形式への適合が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0146

記述答案 > 字数制限・設問要求への適合 | 難易度：基礎

設問は「連携が必要な理由を25字以内で答えよ」。答案候補「それがそこにしかないから」の問題点として最も適切なのはどれか。

ア．短すぎる答案は全て不正解だから。

イ．ひらがなが含まれているから。

ウ．「それ」「そこ」が何を指すか不明で、必要な情報と所在システムを特定できない。

エ．句読点がないから。

答え・解説

正答：ウ

ア：短くても必要十分なら成立する。

イ：文字種は本質ではない。

ウ：採点者が本文との対応を一意に判断できる具体性が不足している。

エ：句読点の有無より意味の明確さが重要である。

総合解説：字数を節約するために主語・目的語を落としすぎると、何を指すか不明になり必要十分性を失う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0147

記述答案 > 字数制限・設問要求への適合 | 難易度：応用

本文では正式に「契約上限額」と定義された項目があり、設問はその値との比較対象を答えさせる。答案として最も望ましい方針はどれか。

ア．独自の略語だけを作って説明なしに使う。

イ．本文の用語を全て一般語へ置き換えて意味を曖昧にする。

ウ．専門用語を増やすため本文にない概念も追加する。

エ．本文で定義された「契約上限額」などの用語を用い、比較する値を具体的に記述する。

答え・解説

正答：エ

ア：採点者が意味を推測する必要がある。

イ：条件の対応が不明確になる可能性がある。

ウ：本文根拠から外れる。

エ：本文用語を使うと、設問・本文・答案の対応が明確になる。

総合解説：B-1では本文の定義語・属性名・状態名を適切に使うことで、短い字数でも精度の高い答案にできる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0148

記述答案 > 字数制限・設問要求への適合 | 難易度：標準

設問は「方式Aを採用しない理由を答えよ」。答案候補が「方式Bを採用する」である。最も適切な評価はどれか。

ア．方式Aを採用しない理由が示されておらず、設問要求に答えていない。

イ．方式Bという語が短いので必ず正解になる。

ウ．結論さえあれば理由設問でも理由は不要である。

エ．方式名を一つ書けば本文根拠は不要である。

答え・解説

正答：ア

ア：代替案の結論は書いているが、問われた理由が欠けている。

イ：字数の短さだけでは適合を保証しない。

ウ：理由設問では因果説明が必要である。

エ：本文との対応がなければ採点根拠にならない。

総合解説：設問が「理由」「原因」「目的」「機能名」のどれを求めるかを識別し、その型で答える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0149

記述答案 > 字数制限・設問要求への適合 | 難易度：標準

40字以内の答案を短くするため、候補「承認済みかつ未実行の申請を対象とする」から「申請を対象とする」へ削った。評価として適切なのはどれか。

ア．短くなったので元答案より必ず良い。

イ．対象範囲を決める二つの状態条件が失われ、必要十分な答案ではなくなる。

ウ．名詞が残っていれば条件は全て省略できる。

エ．字数制限では本文条件を削ることが最優先である。

答え・解説

正答：イ

ア：短さは正確性より優先されない。

イ：字数内でも、対象を限定する重要条件は保持しなければならない。

ウ：名詞だけでは範囲を特定できない。

エ：設問に必要な根拠を失えば得点につながらない。

総合解説：字数調整では、重複語・冗長表現を削り、識別に必要な条件や因果関係は残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0150

記述答案 > 字数制限・設問要求への適合 | 難易度：応用

設問(1)は「原因」、(2)は「対策」を別欄で答える形式である。最も採点しやすい答案作成方法はどれか。

ア．(1)と(2)の両方に同じ対策だけを書く。

イ．原因と対策を一つの長文に混ぜ、両欄へ途中で分割する。

ウ．(1)には感想、(2)には本文と無関係な一般論を書く。

エ．(1)には本文から特定した原因、(2)にはその原因へ直接対応する対策をそれぞれ記述する。

答え・解説

正答：エ

ア：原因欄への回答が欠ける。

イ：どの記述がどの設問に対応するか曖昧になる。

ウ：本文根拠と設問要求の双方から外れる。

エ：設問番号ごとの要求に一对一で答え、因果対応も確認できる。

総合解説：記述答案では設問単位で一論点を対応させ、複数欄の因果関係がある場合も明確に分離して書く。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01